

聖徒の道

9

1996



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1996年9月号



表紙——「命の木の示現」1983年、ロビン・ルーチ・グリーゴ作。(アメリカ合衆国、ユタ州)。工芸ガラスと鉛(167×121×31センチ)。命の木のあでやかな色彩が、『モルモン書』の預言者リーハイの示現に登場し、「暗くて寂しい」世界を表す灰色と対照的である。リーハイが木の下で妻のサラリアに木の実を渡している。その向こうでは、神の子供たちを示す3人の女性が鉄の棒にしがみついで懸命に木の所にたどり着こうとしている。本誌「命の木」p.34参照(教会歴史美術館専属、ロナルド・リード撮影)。

裏表紙——「リーハイの見た夢」1995年、ローデス・サムソン作(フィリピン、バタン)。刺しゅう(114×76センチ)。リーハイとニーファイが「主の御霊」とともにいるのが見える(1ニーファイ8:5-6;11:11参照)。(教会歴史美術館専属、R・T・クラーク撮影)

こどものページ——アイスランドでは、夏は昼がとても長く、冬はあつという間に日が暮れます。プリンヨルフル・オラフソン(右)と弟のマティアスは、お姉さんや両親と一緒にそこで暮らしています。1日が長くて短くても、福音と教会のための活動の時間はいつもあります。「友だちになろう」14ページを見ましょう(写真/ジャネット・トーマス)。

一般

大管長会メッセージ——「真理を守り」 大管長ゴードン・B・ヒンクレー	2
ヤレドの兄弟——学ぶにたけた人 ヘンリー・B・アイリング	16
妻に奉仕することの意味 ゲーリー・L・グレイ	22
レッスンの準備 レイ・L・ラーセン	26
お父さんのテスト キャロリー・H・スミス	31
命の木 リーハイの夢——示現を芸術的に表現する	34
輝く聖典 リーラ・バートレット・クーンズ	48

青少年

スペシャルオリンピックに集う奉仕員 ローリー・リブゼイ	12
神を冒瀆する言葉 ロバート・K・デレンバック	28
溝の中の敵 ジョン・バイザウエイ	32
ヨセフの息子、ヨセフ J・トッド・マーティン、リサ・A・ジョンソン	42
背比べ ロイド・ニューエル	46

定期特別記事

読者からの便り	1
モルモンメッセージ——わたしの平安をあなたがたに与える	11
家庭訪問メッセージ——聖約による受け継ぎ	25

こども

山火事 ロイド・H・パリ	2
歌 勇気あるしもべになろう バーニャ・Y・ワトキンス	5
小さなお友だちへ ジェイ・E・ジェンセン長老	6
分かち合いの時間——かみのつくられたものをとうとぶ カレン・アシュトン	8
おもちゃばこ	10
車輪のあと テリー・スタインズ作	11
友だちになろう アイスランドのハフナルフヨードゥルに住む プリンヨルフル・ビディール・オラフソン ディエーン・ウォーカー	14

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴースリンド
顧問：スベンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンドリック
教科課程管理部責任者
実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク
国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐／子どものページ：ジェニファー・グリーン・ウッド
工程管理：メアリーアン・マーティンデール
出版補佐：ベス・デーリー
デザインスタッフ
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル
予約購読スタッフ
ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道1996年9月号第40巻第9号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 リック
定価 年間予約／海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号／大会号200円

Copyright©1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1994年8月 翻訳承認—1994年8月 原題—International Magazines September, 1996. Japanese. 96989 300
●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-3440-2351(代表) ●『聖徒の道』の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. and Canadian subscription price is \$9.00 per year. SIXTY days' notice required for change of address. INCLUDE ADDRESS LABEL FROM A RECENT ISSUE; CHANGES CANNOT BE MADE UNLESS BOTH OLD ADDRESS AND NEW ONE ARE INCLUDED. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P. O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. SUBSCRIPTION HELP LINE: 1-800-453-3860, U.S. EXT. 2947; CANADA EXT. 2031. CREDIT CARD ORDERS (VISA, MASTERCARD, AMERICAN EXPRESS) MAY BE TAKEN BY PHONE. PERIODICALS POSTAGE PAID AT SALT LAKE CITY, UTAH.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

わたしの好きな読み物

わたしたちには、聖典のほか教会の機関誌が与えられています。それによって中央幹部から勧告を受け、兄弟姉妹たちの証に触れることができます。

機関誌の中でわたしの好きな記事は、大管長会メッセージです。大管長会メッセージのおかげで正しい末日聖徒になろうという思いを、いつも持ち続けることができます。その教えに従うなら、サタンの誘惑を避け、この世の汚れを避け、天父のもとに帰るふさふさとした身を身に付けられると思います。

ホンコン カオロン
香港、九龍西ステーキ、
マカオ支部
徐慧雯

主に仕える

1995年11月号に掲載された、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の大管長会メッセージ、「主に仕え、悪魔に立ち向かう」に感動しました。ファウスト副管長が述べたように、主に仕えることに生活をささげるなら、わたしたちは、自分やほかの人々のためにいっそうよく働けるでしょう。

ブラジル、サンタカタリナ、ツーバロダニエラ・マーティンズ・アルベス・ペレイーラ

伝道に役立つ機関誌

わたしはベネズエラにあるバルセロナ伝道部で伝道しています。『リアホナ』(スペイン語版)の記事は、同僚と求道者を教えるうえで、とても役立っています。例えば、わたしたちから福音の回復についてのレッスンを受けていたある若い母親は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が神の預言者であることを証してくれました。彼女は、

『リアホナ』に掲載されたヒンクレー大管長の大管長会メッセージを読んでいたときにこの証を得たと、話してくれました。

ベネズエラ・バルセロナ伝道部
レナ・チリノ

ハンカチを手に

『聖徒の道』にはとても感動的で、心に触れる記事が掲載されているので、いつも涙をぬぐうハンカチを手にして読んでいます。

名古屋西ステーキ、大垣支部
福岡 勝

たくさんさんの祝福

1995年10月号に掲載された「ないものねだり」を読んで、すばらしい気持ちに包まれました。筆者のジェリー・クリステンセン姉妹が自分の経験を分かち合ってくれたことと、これまで受けたたくさんさんの祝福を思い出させてくれたことに、心から感謝しました。

グアテマラ・シティー、
ウタトランステーキ、
キンタサモイオアワード
アナ・エルビア・リマ・オレイアナ

編集室から

皆さんの手紙、記事、物語などをお寄せください。どの国の言葉でもけっこうです。投稿の際は、氏名、住所、ステーキ/地方部、ワード/支部名を明記してください。あて先は下記のとおりです。

INTERNATIONAL MAGAZINES
50 EAST NORTH TEMPLE STREET
SALT LAKE CITY, UTAH 84150
U.S.A.



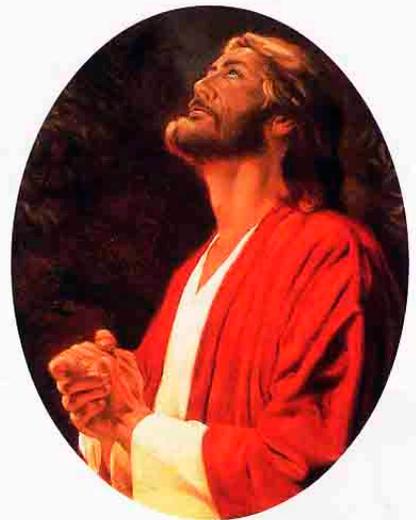
「真理を守り」

以下の説教はもともと、1996年1月21日にテンプルスクウェアのタバナクルで開かれた、ソルトレークバレー地区インスティテュートの合同ファイヤサイドで大学在学該当年齢の独身成人を対象に語られたものです。この度、全教会員がこの教えを取り入れることを願って、ここに掲載することになりました。

大管長ゴードン・B・ヒンクレー

愛する友である若人の皆さん、皆さんにお話するのはすばらしい機会であるとともに、大きなチャレンジでもあります。皆さんは聡明で有能な若い男性、女性です。いろいろなことを考え、疑問への答えを求めている人たちです。そしてこよい、自分が抱えている問題の解決方法や、自分を導く靈感を求めてこの場に来ってきました。わたしは聖い霊の導きを祈り求めています。

皆さんがこの場に来ってくれたことに敬意を表したいと思います。皆さんは世界の歴史の中で、またこの教会の歴史の中で一つの偉大な時代を代表する人々です。教会について言えば、皆さんはこれまでで最も偉大な時代に生を受けていると言えましょう。教育も行き届いています。セミナーを終えて、今度はインスティテュートのプログラムに参加しています。ほとんどの若人が祈らないこの時代に、皆さんは祈りをささげています。理解と光を求めて祈っているのです。皆さんは勉学や将来の進路について祈ります。結婚



THE LORD IN PRAYER,
BY LOWELL BRUCE BENNETT

主は皆さんに、一般的なことと霊的なことの両方を学ぶように望んでおられます。わたしはそうしたことを主張する人や神学をほかに知りません。

について、ふさわしい^{はんりよ}伴侶を見つけることについて、また神聖な神権の権能によって結婚の結び固めを受けるために主の宮に行くことについて祈ります。そして、勉強や自分が関心を抱いているほかの分野でも成功を収められるように祈ります。

ほとんどの皆さんは、正しいことをしたいと願っています。そしてたいていの場合、正しいことをしています。人々をむしばむこの世の汚れから逃れようと努力しています。しかし、それは容易なことではありません。常にチャレンジが伴うのです。

皆さん一人一人は、成功への物語の主人公です。しかしその物語の中には、失敗の章が含まれていることがあります。それは皆さんが乗り越えたいと願っている章であって、また乗り越えることができるものです。過去に何があろうと、新しいスタートを切る方法があります。このことについて、皆さんの監督と話し合うようにお勧めします。

皆さんは末日聖徒イエス・キリスト教会の中で重要な位置を占めています。皆さんのおかげで、教会はどれほど強さを増し加えていることでしょうか。そして教会のおかげで、皆さんの生活はどれほど素晴らしいものになっていることでしょうか。

わたしはこの業に対して強い熱意を抱いています。御業は驚くべき方法で発展を遂げています。奇跡的な形で地の果てまで広がっているのです。今から50年前、教会員のほぼ半数はユタ州に住んでいました。今では、ユタ在住の教会員はわずか17パーセントです。それでも、ユタ州の教会員数は過去最高です。教会は今や、150以上の国や属領地、行政地域に根を下ろすようになりました。皆さんの中には、数年前までは門戸を閉ざしていた国で宣教師として働いてきた

人もいます。主が道を開いてくださっています。事が起こりつつあります。わたしたちは掲げている標準のために世の注目を集めています。教会の名簿に加わる新会員が、3年半ごとに100万人を数えているのです。

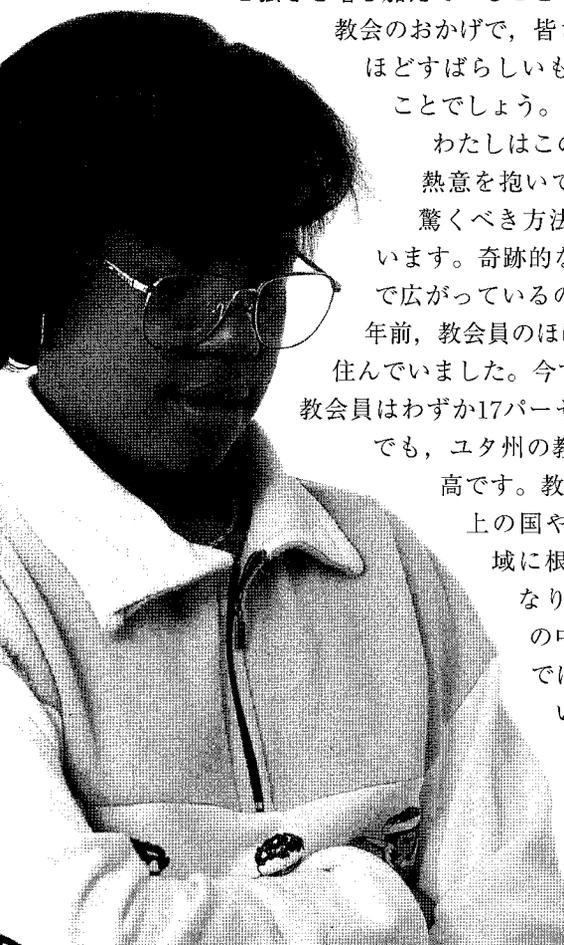
教会はかつてないほど輝かしい状態にあります。^{こんにち}今日ほど機会が開かれたことはありません。主の業の歴史にあって、今は驚くべき時期を迎えています。この栄光に満ちた時期に、皆さんやわたしを含め、教会員は人々から注目されています。主が示されたすばらしい行く末に向けて主の業を前進させるため、わたしたちにはすることがたくさんあります。ほんとうに、ほんとうにたくさんあります。

この偉大な業を担う者として、わたしには責任があります。それは教会の中央幹部であるわたしの同僚の兄弟たちと同じです。すべてのステーク会長、すべての監督、すべての定員会会長、すべての地方部長や支部長にも責任があります。そして一人一人の教会員にも、御業を前進させ主の王国を建設するためにその持ち分を果たす責任があるのです。

そして、皆さんほど大切な責任を負っている人々はほかにいません。皆さんは若く、活力にあふれています。心に確信があります。そしてともに働く仲間と、皆さんの助けを必要としている仲間^{いかり}に恵まれています。

御存じの人もいるかと思いますが、わたしは先日、CBS放送の『60ミニッツ』という番組で主任通信員をしているマイク・ウォレス氏からインタビューを受けました。わたしがインタビューに応じたのは、それが教会の益となると判断したからです。彼は何時間にもわたって、たくさんの質問をしてきました。わたしには何百もの質問のように思えました。その中に次のようなものがありました。「あなたの教会は世界各地で発展を遂げていますが、それをどう説明されますか。」

わたしは次のように答えました。「この業は、価値観の揺らぐ世界に安定をもたらす^{いかり}錨であり、価値観をつなぎ留める錨です。わたしたちは多少なりとも役に立っています。わたしたちの価値観は、イエス・キリストの福音の教えに根ざしています。それは不変のものです。現在でも、イエスがこの地上を歩まれたときと変わっていません。当時と同じように今でも、生活に当てはまりません。人類史の幾多の困難な時期を通じて試されてきまし





教会は皆さん一人一人を必要としています。皆さんの力を必要とし、活力を必要とし、熱意を必要とし、忠誠と献身と信仰を必要としているのです。

だが、何ら欠けているところはありません。わたしたちはこの民に大きな期待を寄せています。この宗教には厳しい要求があります。自制心が求められます。研究と勇氣と信仰が求められます。人々は、価値観が崩壊する世の中で、その基盤が不確かさに揺れ動くのを感じながら、こうした要求にこたえているのです。」

さて、愛する友である若人の皆さん、今晚わたしは、勧めとチャレンジの言葉を皆さんに差し上げたいと思います。まず、わたしと一緒に信仰の道を歩むようにお勧めします。そして、義と真実と善を守り抜くようにチャレンジします。

教会は皆さん一人一人を必要としています。皆さんの力を必要とし、活力を必要とし、熱意を必要とし、忠誠と献身と信仰を必要としているのです。

皆さんの過去の行動様式がどうあれ、わたしは今晚皆さんにチャレンジします。皆さんの生活をイエス・キリストの教えに添ったものとしてください。この教会を皆さんの信仰の基として、愛と敬意と感謝をもって見るようにしましょう。そして模範となるような生活を送り、

幸福になるうえでイエス・キリストの福音がどのような役割を果たすかを人々が目の当たりにできるようにしましょう。

言うまでもありませんが、これは簡単なことではありません。皆さんの周りには嵐が吹き荒れています。性や暴力を巧みに扱ったものが、テレビやビデオテープ、わいせつな雑誌や長距離電話サービス、そしてインターネットにまで侵入してきています。

この御業^{みわざ}とともに働く愛する同胞^{はらから}の皆さん、わたしの皆さんへの願いは、こうしたものから遠ざかってほしいということです。テレビのチャンネルを切り替えてください。皆さんの興味をそそり、後悔の道へ陥れることを意図したビデオテープを借りたり買ったりすることを、疫病を避けるように避けてください。そうしたものから利益を得るのは、制作者だけです。買った人や借りた人は決して利益を得られません。低俗な書物は、たとえどのようなものであれ、読む必要はありません。それらは何の助けにもなりません。あなたを傷つけるだけです。

何年も前のことになりますが、わたしは教会のアジア地区の担当をしていました。そして、沖縄を何度も訪れました。アメリカの軍人が大勢駐留していたからです。彼らの中には車を持っている人がいましたが、そのほとんどがひどくさびていました。フェンダーにもサイドボディにも穴が開いています。塗装もくすんでいました。

すべては潮風の運ぶ塩分が原因なのです。塩分が金属を腐食してしまうのです。

これがポルノグラフィーの姿です。この低俗な汚物は塩分のようなものです。それに身をさらせば、皆さんが着けたよろいは腐食してしまいます。

これはいくら強く言っても言い過ぎではありません。わいせつ物の制作者と販売者は、顧客の人格を滅ぼしながら次第に裕福になってきています。ポルノグラフィーを遠ざけ、そのようなものから離れてください。さもないと心を奪われ、奴隷と化した人はことごとく滅ぼされるでしょう。

わたしは皆さんに「お上品ぶりなさい」と言っているのではありません。ただ、正義を選ぶように願っているだけです。マイク・ウォレス氏に同行した取材班は、皆さんのような学生とも話をしました。男女両方ともです。レポーターの話によれば、学生たちはこう言ったそうです。たばこを断るのは簡単です。ビールを断るのも何の問題ありません。そのようなものは、はっきり線が引けるからです。でも、性については違います。どこに線を引くかが、難しいのです。

わたしは答えました。「その学生たちは、どこで線を引くべきか分かっていますよ。別に細部にわたって定義しなくともよいのです。危ない所に来たときは自分で分かれます。」

わたしの友である愛する若人の皆さん、これはすべて自制心の問題です。もちろん皆さんは何が正しくて何が間違っているか知っています。このことについては子供のころから訓練されているはずですが、自分で間違っていると分かっている方向にいったん滑り込んでしまうと、止まってきびすを返すのは難しいものです。しかし、できないことはありません。これまで、皆さんと同じ気持ちを経験した何百、何千、何百万の人々がそれをしてきたからです。

主は言われました。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。」(教義と聖約121:45)

これは戒めです。主は様々な形でこのことを繰り返してこられました。戒めを破れば代価を、時にはとてつもなく大きな代価を支払わなければなりません。逆に、自制心を働かせて、個人の意志という偉大な力を呼び寄せ、主の御霊の助けを願い求めていくならば、その結果とし

て幸福を味わうことができます。

かつてユタ大学を管理していたジョン・A・ウィッツォー長老はこう述べました。「わたしの観察によれば、道徳の原則に違背した若い男女は、互いを憎み合うようになります。」わたしも同じことを見てきました。初めは愛の言葉が交わされても、それが怒りと憎しみの言葉に変わります。

若い女性の中には、結婚せずに子供をもうけるのはすばらしいことだと考えている人がいます。それは誤った考えであると言えます。そのようなことが将来、そして永遠にわたって、どんな結果をもたらすのか、皆さんは知らないのです。新たな生命をこの世に誕生させることは、実に重大な業であって、免れることのできない責任を絶えず伴うのです。

男性と女性の結婚は、神が定められたものです。結婚は、神の子供たちをこの世に誕生させるために主が設けられた制度です。したがって、結婚関係以外の性関係は律法への背きであり、イエス・キリストの福音の教えに真っ向から対立するものです。

この話のついでに言っておきたいことがあります。デートの際、愛しているからと言って相手の女性に性的な関係を求める男性は、はっきり言って、その女性を愛してはいません。そうした表現は情欲であり、愛ではないのです。

さて、もちろんわたしたちは皆さんに、デートをするように勧めています。たくさんの人と友達になってほしいのです。主の宮で正しい結婚をするための段階を踏んでいくのは、大切なことです。しかしそのときに、この先には立ち入らないという境界線を定めてください。

ギャラハッド卿はこう言いました。「わたしの強さは十人力。心に汚れがないからだ。」(アルフレッド・テニソン, *Sir Galahad* 『ギャラハッド卿』)

徳を守ることから来るこの力は、皆さんが主を愛する人々の偉大な軍勢に加わり、主の栄光の業を前進させたいと願うときに必要となるものです。

これと似たもう一つのことにも触れたいと思います。粗野で不作法な、汚れた言葉についてです。こうした言葉は至る所で聞かれます。主は御自分の指で石の板にこう刻まれました。「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。」(出エジプト20:7)



男性と女性の結婚は、神が定められたものです。結婚は、神の子供たちをこの世に誕生させるために主が設けられた制度です。したがって、結婚関係以外の性関係は律法への背きです。

のろいの言葉や下品な言葉を使う人は、自らの語彙の乏しさと表現力の薄弱さをさらけ出しているだけです。愛する友である皆さんにお願いします。永遠の御父とその愛する御子、世の贖い主の御名を神聖に保ってください。この教会の会員である人が、御父と御子と聖霊の御名によってバプテスマを受けた人が、そして主の晩餐の聖餐を受けた人が、どうして主の神聖な御名を卑しめ、汚すことができるのでしょうか。神の形に造られ、霊の宿る宮であると主によって宣言された肉体について、自らを神の子と認める人が、なぜそのような汚れた卑しい言葉を使うことができるのでしょうか。

会話の技術を養ってください。それは大きな財産になるはずで、わたしにとって、皆さんのように聡明で明るい若人の会話を聞くことほど、楽しいひとときはありません。それはウイットに富んでいて、才気きらめいています。話には生気がみなぎり、真面目なテーマを扱っているときでも、ところどころに笑い声があります。しかし、繰り返し言いますが、会話の中で主の御名をみ

だりに唱えたり、汚れた卑しい言葉を用いたりする必要はないのです。さらに言えば、いわゆるダーティージョーク（卑しい冗談）を使わなくても、世の中には楽しい冗談がたくさんあります。皆さんにチャレンジします。主の御名をみだりに唱えることと、汚れた卑しい言葉を使うことをやめましょう。これからの1週間、友人や仲間との話の中で、後で悔やむような言葉を使っていないかどうか気をつけてみてください。

さて、これまで末日聖徒としての成長を妨げる事柄について話してきましたが、もう一つ話したいことがあります。それは、教会に対する批判的な態度についてです。皆さんは聡明で、有能で、教養のある若い男女です。皆さんはあらゆる疑問についてよく分析をして考えるように、また十分に調べて様々な角度から検討を加えるように教えられてきました。それはよいことです。でも、そうするとき、教会や教会の指導者の欠点を探そうとするのはやめましょう。研究をするときには、バランスを保ってください。わたしは自分を守ろうとして言っているわけではありません。わたしに話しかけたり手紙をくれたりする大多数の人は、たいへん丁寧に、優しく、思いやりにあふれています。その反対に、少数ですが、教会のことを、またわたしのことを心の底から嫌っている人がいます。そうするのはその人たちの勝手です。でも、わたしは彼らに対して何の憎しみも抱いていません。た

だ、悲しく思うだけです。結果がどうなるか分かっているからです。

わたしは12歳のときに執事定員会の会長会で働く責任に召されて以来、この教会のいろいろな役職を経験してきました。また過去60年間、教会執務ビルで仕事をしてきました。中央幹部として召される前から、わたしは歴代の大管長やそのほかの中央幹部の方々と知り合いになりました。そして早い時期に、彼らも人間であって、細かな点から言えば不完全な人であると、分かるようになりました。しかし、わたしが言いたいのは、世の中でこれほどすばらしい人々は見つからないと感じたことです。彼らにも批判してくる人がいて、悪口を浴びせられていました。不平分子と背教者の文書や話に対処しなければなりません。しかし、それら中央幹部の名が感謝と敬意をもって人々の記憶にとどまる一方で、彼らを批判した人々の名は忘れ去られてしまいました。

教会執務ビルで働いていた若いころ、十二使徒評議会会長から、同僚と一緒に教会法廷に関する文書を届けに行くように頼まれました。相手の人は、教会に批判的で背教的な要素の強い書物を何冊か著していました。会員記録はカリフォルニアのステーキにあったのですが、当時彼はソルトレーク・シティーに一時的に滞在していました。そのため、彼のステーキ会長が教会法廷に関する文書をソルトレークに送ってきたのでした。

わたしと同僚は二人とも長老でした。わたしたちは彼が住んでいる家に出かけて行きました。わたしが訪問の目的を告げると、彼はわたしたちを家に招き入れて、ドアから離れた部屋の奥にあるいすに腰かけるよう合図しました。そして、ドアのそばに立ちました。相手が怒りの気持ちを存分に吐き出してしまふまでは帰してもらえそうもありませんでした。男の言葉は悪意に満ちていました。脅迫までしてきました。しかし、彼が手を上げてこなかったのは、幸いでした。わたしたちは二人とも大柄ではなかったのです。用事が済むと、わたしたちは入り口の所まで行ってドアを開け、その場を後にしました。

彼が生きている間、その著書は大勢の人に読まれ、読者たちは彼の背教的な考えをほかの人々に広めました。また、たくさんの人が読んで、特定の中央幹部への彼の非難を受け入れました。彼の背教的な考えや中央幹部への批判はどちらも誤りでしたが、彼の本を真実のものと

して受け入れた人々が実際に存在したのです。

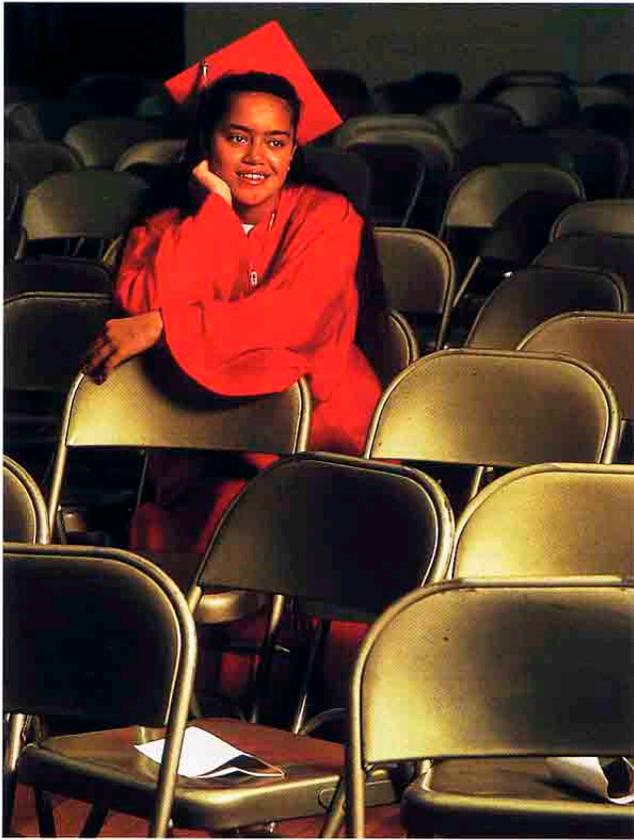
やがて彼は教会から破門されましたが、それは彼の怒りを増しただけでした。自らの誤ちを認めるところか、ますます怒りを募らせていきました。ところが、突然彼のことが話題に上らなくなりました。だれも彼に興味を示さなくなったのです。彼がこの世を去ってもう長い年月がたちました。もうだれも彼のことを覚えていません。一緒に書類を届けたあの同僚でさえ、次の世に行きました。彼の名前を覚えているのは、今ではわたしだけではないでしょうか。

今のわたしたちの中にも、このような人が多少います。過去にもいましたし、これからもいるでしょう。彼らは教会の落ち度を見つけるために、人生を無駄に過ごしています。教会の歴史を掘り起こし、否定的な断片をすべて集めます。また中央幹部の言葉を調べて、欠点を探そうとします。もしかしたら、今晚わたしが語ることにしても、懐疑心をもって耳を傾けているかもしれません。そのようにして時間を無駄にしていることを残念に思います。わたしは彼らのことを考えるとき、彼らがそうした態度を改め、考えを変えて教会に戻るように、そしてその才能を王国の建設のために使うように説得できたらと思います。しかし、わたしの意向を受け入れる気持ちはなさそうです。

彼らは今、自分たちを照らす太陽の輝きを楽しんでいるようです。でもその太陽もやがては沈み、彼らは忘れ去られてしまうのです。

この御業が今日の驚くべきレベルまで発展したのは、批判する人々の力ではないということを忘れないください。信仰を持ち、大きくても小さくても自らの分を果たし、それを広げていった兄弟姉妹によって、この御業は進展してきたのです。

さて、わたしは皆さんに思慮深くあってほしいと願っています。それも主の業にあって、建設的かつ肯定的な形で思慮深くあってほしいと思います。皆さんが加わっているこの教会は、どこにでもある平凡な組織ではありません。まさしく地上における神の王国なのです。ダニエルが示現で見た、人手によらず山から切り出された石が転がり出て、全地を満たそうとしています（ダニエル2：44-45；教義と聖約65：2参照）。この業について黙示者ヨハネはこう語っています。「わたしは、もうひと



わたしは皆さんが、これから一員となる社会に立派な貢献ができるよう、全力を尽くして備えをするよう願っています。

りの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき〔た。〕」(黙示14:6)

わたしが述べてきたこれらの否定的な事柄はすべて、人生という海を旅するわたしたちの船のスピードを落とす、船体に付いたふじつぼです。より高い場所に立ちましょう。福音を学びましょう。福音に従って生活しましょう。福音を人々に伝えましょう。

「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」(信仰簡条1:13)

教会は永遠の真理の大きなダムです。わたしたちはそこからいつでも、心ゆくまで、真理の水を飲むことができます。教会は標準の守り手であり、価値観の教師です。その価値観にしっかりつながってください。それを心につき留めてください。これから世の中に出て行って大切な役割を果たすときに、皆さんの人生を導く道標としてください。

わたしは皆さんが教育プログラムに熱心に参加してい

ることを心から喜んでいきます。教育は受けられるだけたくさん受けるようにお勧めします。皆さんがこれから出て行こうとする社会は、競争の非常に激しい社会です。主は皆さんに、一般的なことと霊的なことの両方を学ぶように望んでおられます。主は現代の啓示を通して、皆さんに次のような強い指示を出されました。「また、あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。……また、天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、すぐにも必ず起こること、国内にあること、国外にあること、戦争と諸国民の混乱、地上にある裁き、国々と王国に関する知識についても同様である。」(教義と聖約88:77, 79)

よく知られたこの言葉を読んでみると、主の指示には、わたしたちが接する知識がすべて含まれているようです。神は霊的な知識と同じように一般的な知識も得るよう命じておられますが、わたしはそうしたことを主張する人や神学をほかに知りません。どうぞ熱心に勉学に励んでください。今は皆さんに大いなる機会が与えられている時です。わたしは皆さんが、これから一員となる社会に立派な貢献ができるよう、全力を尽くして備えをするよう願っています。

皆さんは今後の人生を通じて、知識や高潔さ、仕事の技術、誠実さにより、主の教会の名を高めてくれることでしょう。

わたしはよくこう聞かれます。「好きな聖句はどれですか。」その度に、たくさんありますよ、と答えるのですが、中でも特に愛着を覚えるものがあります。教義と聖約第50章の聖句です。

「また、人を教化しないものは、神から出てはおらず、^{くらやみ}暗闇である。

神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:23-24)

この聖句についてじっくり考えてみてください。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」

わたしはこのわずかな言葉の中に、神がその愛する息子と娘たちのために与えてくださった永遠の計画の驚く

べき概念が展開されていると感じます。この言葉は学問について語っています。現在と将来について語っています。成長と発展について語っています。建設的で、肯定的で、すばらしい聖句です。

わたしはだいたい前にこの聖句を暗記しました。わたしにとってこの聖句は、すばらしいチャレンジを与えてくれるものであり、また御父であるわたしたちの神から授かった壮大な約束がいっぱい詰ったものなのです。

暗闇や悪や罪から幸福が来るという、愚かな考えを持たないでください。幸福は主が示された道に従うことによってもたらされます。それを忘れないでください。もう一度言います。信仰の道をわたしと一緒に歩みましょう。

結びとして、この業に対するわたしの証を残したいと思います。この世の標準からすれば、わたしは老人です。一般の引退する年齢を20年も超えてしまいました。でも、老いたとは思っていません。わたしたちが携わるこの業に対して、熱烈な思いを抱いています。なぜでしょうか。それは、この業が全能者の業であり、諸天の下のあらゆる業に勝るものであることを知っているからです。

この世と永遠にわたることについて言えば、それより大切なものは何もありません。主はこう言われました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ17:3)

これが永遠の命です。わたしたち一人一人への御父の幸福の計画です。神であられるわたしたちの永遠の御父は生きておられます。イエスは神の愛する御子であり、御父の長子であり、肉における独り子であり、世の救い主、贖い主であり、その贖罪の業によって、わたしたちに永遠の昇栄の機会を与えてくださいました。ジョセフ・スミスは、過去においても現在においても預言者です。『モルモン書』は真実です。1830年にニューヨーク州パルマイラで出版されて以来、いろいろな批評家が、その起源は偽りであると証明しようとしてきました。しかしそのような試みは水泡に帰しています。『モルモン書』は年を追うごとにさらに大勢の人々に読まれ、ますます多くの人々の心をつかまえています。考えてみてください。1994年には374万2,629冊の『モルモン書』が配布され、『モルモン書』またはその一部が翻訳されてい

る言語は、今や88か国語に上っているのです。

わたしたちには神権があります。神権は実在します。神権には力があります。神権は真実です。わたしたちには啓示の霊があります。わたしは皆さんに、主はいかなる人にも教会を間違った方向に導くことをお許しにならない、と証します。主は命と死を支配する力を持っておられます。この教会は主の教会であり、人の教会ではありません。主は主の教会が守られ、発展を遂げ、教会員が神の言葉によって養われることにより、その定められた使命を達成することを見届けようとしておられます。

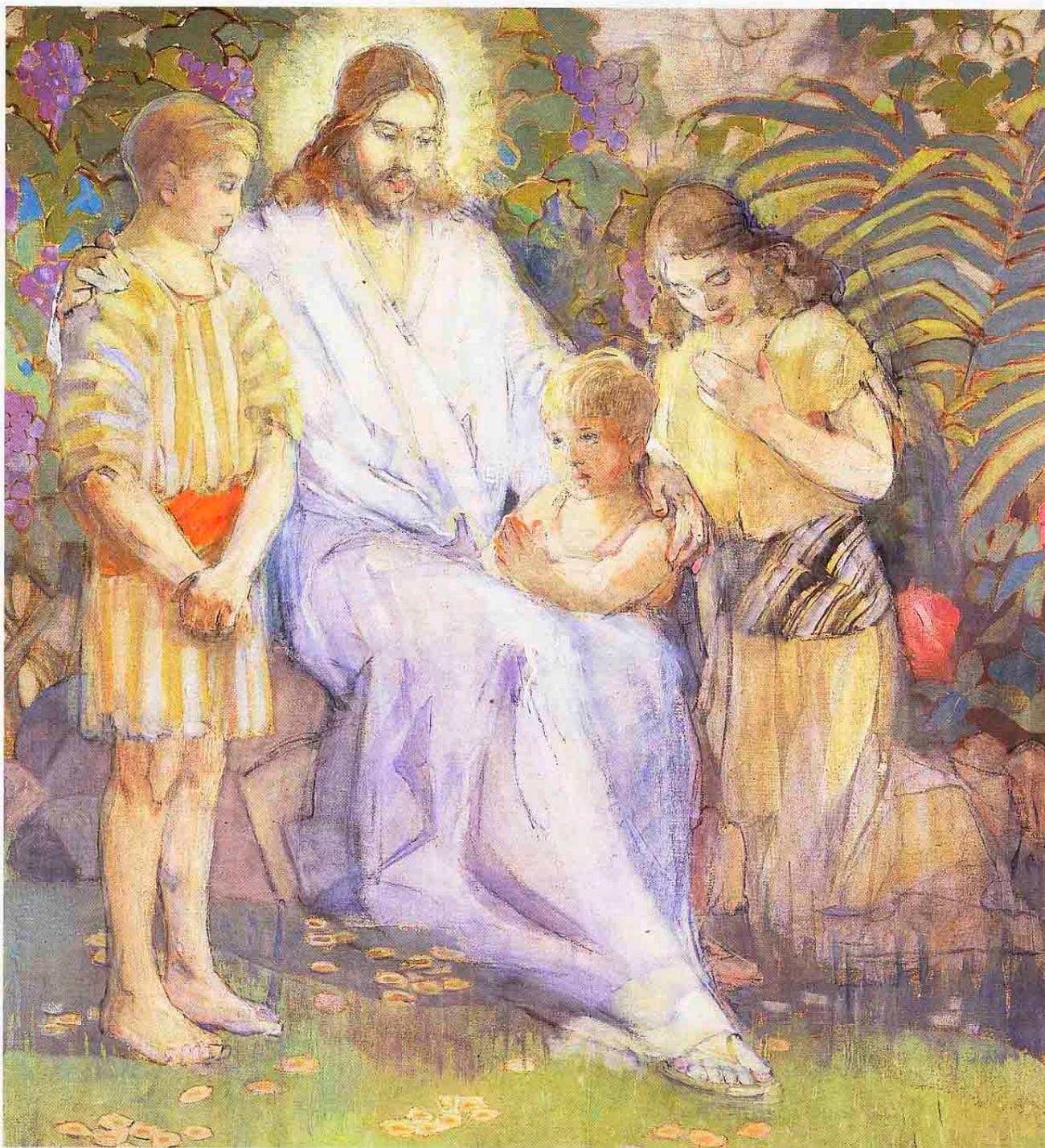
前に話しましたが、皆さんもわたしも含め、今、教会員は人々から注目されています。わたしたちには永遠の御父の業を助けるという大いなる機会が与えられているのです。「われら受けし信仰持ち、殉教者の持つ真理を信じ」ましょう(「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番)。

わたしの友である愛する若人の皆さん、わたしが皆さんを愛していることを知っていただけたらと思います。皆さんが徳と義、熱意と学究、愛と尊敬の人生を送るときに諸天が開かれ、祝福が注がれるように祈っています。そして、主が求めておられることを理解して実行するときに平安があるよう、イエス・キリストの御名により、へりくだって祈ります。アーメン。□

ホームティーチャーへの提案

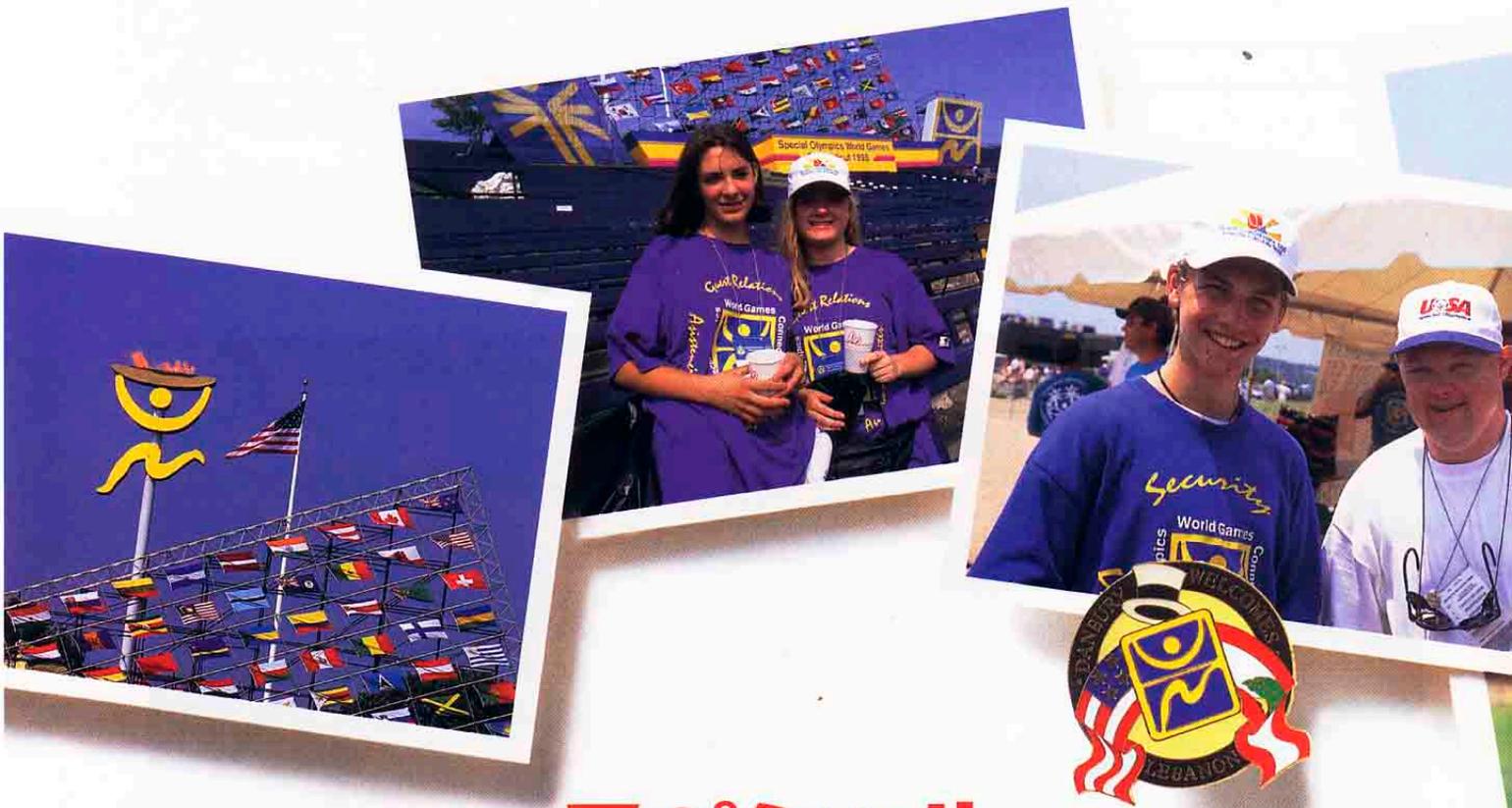
1. 末日聖徒は今日どこにでもある性と暴力の蔓延から身を遠ざけるようにします。徳高くあってください。
2. 末日聖徒は今日広く用いられている、粗野で不作法な汚れた言葉を避けるようにします。会話の技術を養ってください。
3. 末日聖徒は教会とその指導者に批判的にならないようにします。主の業に対しては建設的で肯定的な思いを持ってください。
4. わたしたちには民として喜ぶべき理由がたくさんあります。わたしたちには神権があり、啓示の霊があります。主はいかなる人にも教会を迷いに陥れることをお許しになりません。

わたしの平安を あなたがたに与える



CHRIST WITH CHILDREN BY MINERVA TEICHERT, CHURCH HISTORICAL DEPARTMENT

イエス・キリストに心に向け、主が与えてくださるすべてのものを享受しましょう。
それは、赦し、愛、まことの平安です（ヨハネ14：27 参照）。



スペシャル オリンピックに集う奉仕員

ローリー・リブゼイ

□ パート・ノートンは自転車に乗るとまったくの別人になります。

「ロバートは朝の8時に家を出ると、夜の10時まで、近所の道路を自転車に乗って走り回っていました。自転車に乗るのがほんとうに上手で、コネティカット州で行われたスペシャルオリンピックの自転車競技では1位になりました。」こうロバートの弟リーは語っています。「スペシャルオリンピックに参加する前は、ほかの人とのつきあいがほとんどありませんでした。しかし、スペシャルオリンピックに関係するようになってからは、状況が一変しました。友達ができ、以前にはなかったことですが、学校の子供たちも彼と話すようになりました。」

スペシャルオリンピックは、30年近くの間、地区レベル、全国レベル、国際レベルで、精神薄弱者のための運動競技会を企画してきました。精神薄弱児だったロバートは、1992年に亡くなるまで、スペシャルオリンピックに何度も参加しました。「兄がいなくなって寂しいです。いつも兄のことを思い出します。スペシャルオリンピックは、兄にとって生きがいでした。この競技会に自分の人生を燃焼したのですから。」

ロバートの思い出は、リーと同様、スペシャルオリンピックを生きがいとするようになった末日聖徒の若人の心の中にも生きています。

世界大会とユースカンファレンス

1995年の夏のこと、アメリカのコネティカット州とロードアイランド州にある3つのステークの指導者が集まって、それぞれのステークのユースカンファレンスを合同で行うという計画を立てていました。「ステークの指導者はユースカンファレンスの活動に興味を持ち、子供たちに何がしたいかと尋ねました。」こうニューヘブンステーク、ニュートンワードでアロン神権、教師の職にあるリー（15歳）は振り返ります。「わたしたちは例えば庭の手入れのような地域社会への奉仕活動を行う案について話し合いました。」

そんなとき、コネティカット州ニューヘブンとその周辺で行われることになっていた第9回スペシャルオリンピック世界大会の手伝いをしてはどうかという提案が挙がりました。この提案には皆非常に乗り気になり、時を



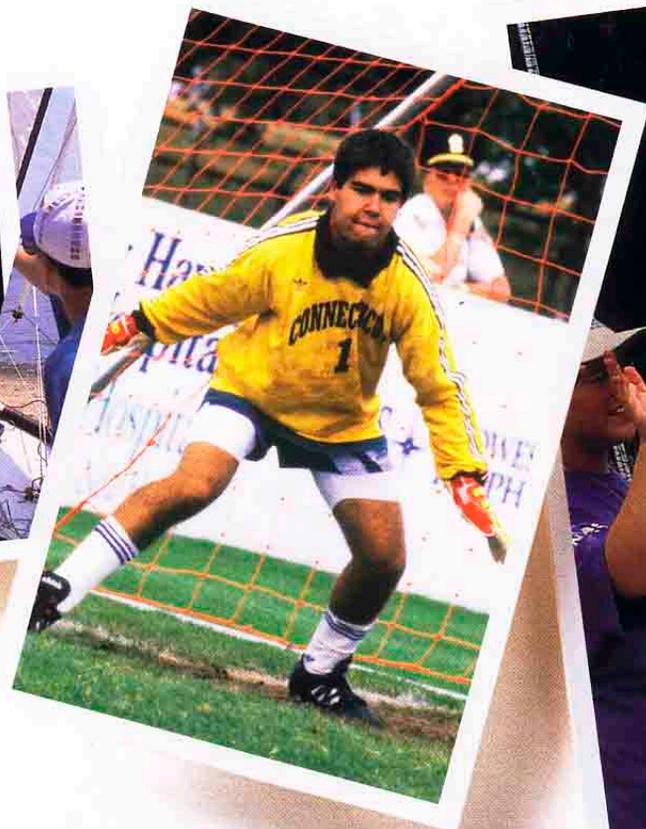
Quest Rowing Club

World Games

Quest Rowing Club

World Games
Quest Rowing Club

PHOTOGRAPH BY BRENT PETERSON



待たずして、400人以上もの末日聖徒の若者がボランティアとなる署名をしました。

ユースカンファレンスのテーマは「世の光となる」でした。末日聖徒の若人は文字どおり世の光となりました。彼らは、応援役から売店の売り子まで、実にいろいろな形で奉仕しました。「わたしたちは自分たちがろうそくのように周囲を照らしていると感じました。選手に奉仕し、気遣うことで自分たちの光を世の人々と分かち合うことができました。良い模範を示すことでほんとうに世の光になれるのです。」これ以上良い奉仕の仕方はないと感じたトリーは語っています。競技はすべてリーの住むコネティカット州で行われました。リーにとって一つはっきりしていたことは、このスペシャルオリンピックがほんとうに特別な競技会だったということです。

兄のロバートが競技会に参加したときに多くの時間を割き、さらには1994年にスペシャルオリンピックのボランティアとなってコネティカット州で行われた数々の競技会でも奉仕したリーは、世界大会でどのような奉仕活動が必要なのか理解できました。

「この催し物にすべての子供たちが没頭できてほんとうにうれしかったです。みんなが選手のところへ行って、抱き合ったり、うまくいったとき手のひらを高く上げて

互いにパチンとたたいたりして、そのほか選手たちに必要なことは何でもしました。」そうリーは語っています。

ベンも同じような意見です。「とても楽しかったです。みんなが奉仕したいと思いましたし、奉仕することだけに焦点を当てて働きました。選手たちも自分に与えられた能力の限りを尽くして頑張りました。人生の勝利者とは最初にゴールのテープを切った人ではなく、自分の持っているものを最大限に発揮した人だということを学びました。」

第1回目の国際スペシャルオリンピックは1968年7月にイリノイ州のシカゴで開催されました。そのときは、カナダとアメリカから1,000人の選手が参加しましたが、今や140か国から7,000人を超える選手、および4万5,000人のボランティアが参加するまでの大きな催しとなりました。1993年には、初めて、北アメリカ以外の国、すなわちオーストリアで冬季スペシャルオリンピックが行われました。またヨーロッパ夏季スペシャルオリンピックがベルギーとスコットランドで行われました。

1995年コネティカット州に設置された陸上競技の会場で、競技場に選手たちが入場すると、教会の若人は近くまで行って握手をしたり、背中をたたいたり、励ましたりしました。末日聖徒の奉仕員がサインを求めると、選

物事を...
人生...
及...



手たちの顔に浮かぶほほえみもさらに大きくなりました。

「選手たちは、ほほえみかけたり、おめでとうと言ったりするとほんとうに幸せそうでした。話しかけるとすぐに陽気なおしゃべりになるのです。」こうステファニー・ペリーは語っています。

末日聖徒の若者たちも同じ態度を身に付けました。「このほかにも幾つかのユースカンファレンスに参加し、奉仕活動を行いました。そんな中である指導者のもとに1通の感謝状が届きました。この活動に参加した人々のうちの半分は自分たちのしたことがどうして感謝されるのか理解できませんでした。良い影響を与え合ったので、こちらでも感謝したいくらいだったからです」と、メリリー・ヘイルズは語っています。「握手をしたり、うまくいったときに手のひらをお互いにパチンとたたいたりするとき、教会の若人の興奮ぶりといったら、それは大変なものでした。」

ベン・ストラットフォードは次のように語っています。「この奉仕活動のいちばんすばらしかったところは、スペシャルオリンピックの選手たちとともに時間を過ごす中で良い模範に接することができたことです。」

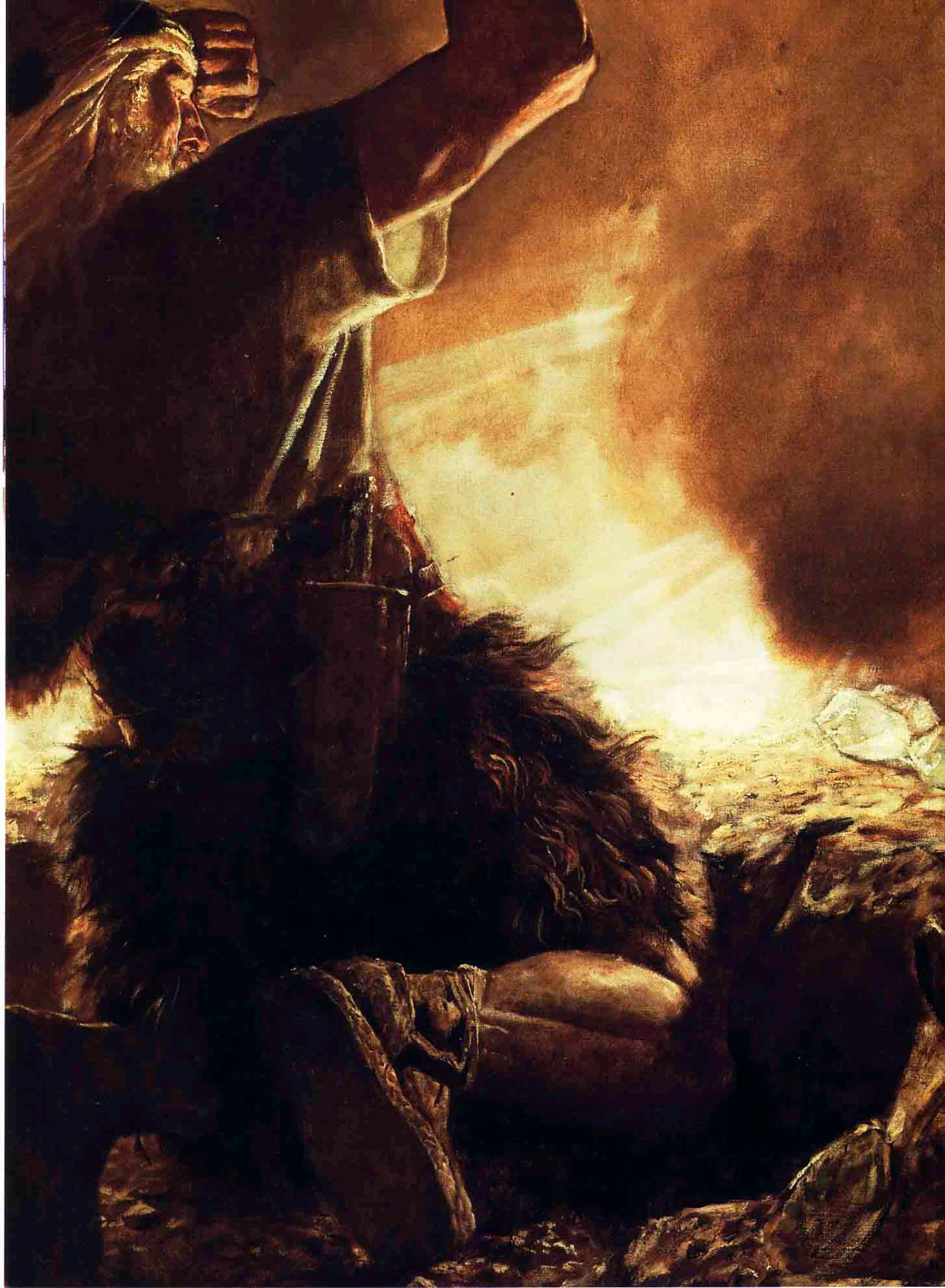
ほんとうの目的

ある日うだるような暑さの中、ニューヘブンで多くの若い男性と女性がほうきを片手にエール大学のフットボール競技場に集まりました。彼らの仕事は、競技会の閉会式に備えて、石ころやガラスの破片などを一掃することでした。リーは袋の中になくさんのごみを入れながらふと考えました。「これまで3日間の奉仕を通して、自分たちは一体何をしてきただろう。」

「掃除はただの手作業です。掃除が終われば、競技場もほくたちのしたことは忘れてしまいます。」こうリーは語っています。「でもあの選手たちはほくたちのことを忘れません。そのことがほくにとってほんとうに大切なのです。ほくも彼らを忘れないでしょう。」

リーはスペシャルオリンピックの選手たちとの交流を深めることで、ほんとうの喜びや幸せを経験しました。特に、彼らが自分にほほえみかけてくれたときには、そうでした。

リー自身も、選手たちにほほえみ返すとき、兄のロバートを思い出さずにいられません。□



ヤレドの兄弟

学ぶにたけた人

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

勉強したがらないと言って親や教師にしかられ、うんざりした経験はだれにでもあるものです。わたしの耳の奥には、あるドイツ語の教師に言われた言葉が今でも残っています。彼女はわたしの机のそばに立ち、わたしと目を合わせるやいなやこう言いました。「ドゥ・ピスト・アイン……」その言葉を訳すと、「あなたのような勉強嫌いの怠け者は、いつかそのことで惨めな思いをするわよ」という意味です。実際に、わたしはそう感じていました。学ぶに遅く、自分に力のないことを経験した様々な思い出は、確かに惨めなものです。ドイツ語の教師や、ピアノの教師、そのほかにも多くの人々から積極的に学ぼうとしなかったことを悔いる気持ち以上に、わたしが長い間自分の心を苦しめてきたのは、信仰、悔い改めの原則、聖霊、慈愛などを用いるように主が教えてくださったはずなのに、自分がそれに心を向

「すると、ヤレドの兄弟の目から幕が取り除かれ、彼は主の指を見た。……ヤレドの兄弟は恐怖に打たれ主の前に倒れた。」(エテル3:6)

けられなかったということです。

皆さんにわたしと同じような、悔いる気持ちがあれば——多少はあると思うのですが——また、もっとよく学びたいという気持ちがあれば、ヤレドの兄弟の生涯の中に慰めと教訓を得られるでしょう。ヤレドの兄弟とともに、謙遜けんそんになりましょう。エテル書には彼の生活を変えた主からの叱責しっせきについて書かれていますが、それは皆さんの生活を変えるのにも役立つでしょう。

「さて、4年の終わりに、主は再びヤレドの兄弟を訪れ、雲の中に立って彼と話された。そして、主は3時間ヤレドの兄弟と話し、彼が主の名を呼ぶことを思い起こさなかったので、彼を懲らしめられた。」(エテル2:14)

この悲しむべき記録に出ている数字、すなわち、「4年」と「3時間」は、ヤレドの兄弟が抱えていた問題と、それに対する主の解決策を理解するための鍵です。ヤレドの兄弟、そして彼に率いられた民や家畜は旅の途中で4年間一つの所に足をとどめました。しかし、彼らは多くの水を渡って約束の地へ行くはずでした。そして、主は1分や5分ではなく、3時間を使ってヤレドの兄弟が主の名を思い起こさなかったことを叱責されたのです。こ

の「4年」と「3時間」は、学ぶことの妨げと学びへの道についてわたしたちに何を示しているのでしょうか。

わたしは、この「4年」という重大な問題は、バベルの塔の混乱とともに始まり、アジアの道なき荒野を進む旅の中で停滞的な状況にあったことから生じたものだと考えています。そして、その主の叱責しっせきの後には、すべてにおいて主の指図に従いながら、嵐あらしが逆巻く深い海を渡って、全地の中でえり抜きえりぬきの約束の地へ行く旅が待ち構えていたのです。スペンサー・W・キンボール長老は総大会の席上この劇的状況について次のように話しています。

「この並ぶもののない書物は、航海者たちの好奇心をそそることでしょう。そこには、距離、規模、危険さにおいてとても信じられない、前例のない旅が記録に納められています。それは、大海原を渡る大航海、バイキングたちよりも何世紀も前の時代の世界をまたにかけた旅、そして嵐、暗礁、ハリケーン、反乱など、考えられる危険がすべて詰まった航海でした。最初に記録されているこの航海は、約40世紀前に行われました。長い外洋の航海に耐え得るその数隻の船は、一般に知られている帆もエンジンも、櫓ろも舵かじもなく、ノアの箱船と近い時代に造られ、構造も似ていました。船の長さは1本の木の長さで、グレービーソースの入れ物のようにへさきともはとがっており、皿のように透き間がなく(エテル2：17参照)、屋根と船底には一つずつ穴があり、船内は溶かし出した石で照らされていました(エテル2：20；3：1参照)。恐らくラジウムか何か、現代の科学でもまだ解明できない物質で照らされていたのでしょうか。水の上に軽く浮いた鳥のように、この船団は風と海流に運ばれ、恐らく北アメリカ西岸のある地点に上陸しました。」(Conference Report『大会報告』1963年4月, pp.63-64)

この危険に満ちた旅を指揮したのはヤレドの兄弟でした。(ほかの資料からヤレドの兄弟の名前はマホンライ・モリアンカマーであることが分かっています〔ジョージ・レイノルズ“The Jaredites” *Juvenile Instructor* 「ヤレド人」『ジュブナイル・インストラクター』1892年5月1日, p.282 脚注参照〕。)先に述べた4年を除いて、記録に残された彼の生涯は、謙遜けんそんに学ぶ心と大胆に行動する能力が一つに融合したことを示しています。一般的には難しいとされるこの二つの特質の融合が、エテル書の始めの部分に示されています。主が塔を造る者たちを混乱させられたときの物語の中には、彼自身の力と、ヤ



ILLUSTRATED BY DEL PARSON

「そして、主は3時間ヤレドの兄弟と話し、彼が主の名を呼ぶことを思い起こさなかったため、彼を懲らしめられた。」(エテル2：14)

レドの言葉をそのまま聞き入れる態度が、背景として描かれています。

「ヤレドの兄弟は体の大きな強い人であり、主から大いに恵みを受けていた人であったので、彼の兄弟ヤレドは彼に言った。『主がわたしたちの言語を乱して、わたしたちが自分たちの言葉を理解できなくなることはないように、主に祈り願ってほしい。』

そこで、ヤレドの兄弟が主に呼び求めたところ、主はヤレドを哀れんで、ヤレドの言語を乱されなかった。そのため、ヤレドと彼の兄弟には言語の混乱はなかった。」(エテル1：34-35)

マホンライ・モリアンカマーは自分と兄弟のためにそのような祝福を得た後で、再びヤレドの勧めを受け入れ、自分たちの友人も乱されないようにと祈りました。そして、その願いも聞き届けられたのです。そしてもう一度彼はヤレドの勧めを受け入れ、自分たちを約束の地へ導いてくださるよう神に願い求めました。そして、その願

いも聞き届けられたのでした。そして、彼はそれらの祝福以上のものを得ました。指導者の召しを授けられたのです。

「そこで主は、ヤレドの兄弟の祈りを聞き、彼を哀れんで言われた。

『行って、あなたの家畜の群れを全種類雄も雌も集め、また地の種も全種類にわたって集めなさい。また、あなたの家族と、あなたの兄弟ヤレドと彼の家族、あなたの友人たちと彼らの家族、ヤレドの友人たちと彼らの家族を集めなさい。

そして、あなたはこれを終えたら、彼らを率いて北方にある谷に下って行きなさい。そこでわたしはあなたに会おう。そして、わたしはあなたの前を行き、地のあらゆる土地に勝ったえり抜きの土地へとあなたを導こう。』(エテル1:40-42)

神ばかりか、兄弟の勧告も受け入れられたこの人は、祝福を授けられたその理由について、神から次のように言われました。「わたしがあなたにこのように行うのは、あなたがこのように長い間わたしに叫び求めてきたからである。」(エテル1:43) 体の大きな強い人であったマホンライ・モリアンカマーに民を指導する責任が与えられたのは、彼に行動力があったからです。しかし、それは彼が召された理由のごく一部に過ぎません。何より彼が、旅の実際的な面の詳細について常に教えを下さる主に頼っていたからなのです。

「そこで主は彼らに、荒れ野の中へ、すなわち、これまで人が決して住んだことのない地方へ行くように命じられた。そして、主は彼らの前を行かれた。また、主は雲の中に立って彼らと話し、彼らの旅をする方向について指示を与えられた。

そこで、彼らは荒れ野を旅し、数隻の船を造ってそれで多くの水を渡り、絶えず主の手に導かれて行った。」(エテル2:5-6)。

兄弟の勧告を受け入れる度量を持ち、力強い祈りを主に聞き入れられて祝福を受け、人々とあらゆる種類の家畜の群れを率いて荒れ野と海を越え、最後に大海の岸までたどり着くだけの強さを持った人が、天幕を張り、主を忘れたことで4年後に叱責を受けたのは、一体どうしてなのでしょう。

その4年についての記述の短さそのものが、多くのことを語っています。

「さて、わたしは自分の記録を続けよう。見よ、主は

ヤレドと彼の同行者たちを、陸地と陸地を分けている大海まで導かれた。そこで彼らは、海に着くと天幕を張り、その場所をモリアンカマーと名付けた。そして、彼らは天幕に住んだ。彼らは4年間、その海岸で天幕に住んだ。」(エテル2:13)。

人々が重荷を下ろしてほっとした、そのため息が聞こえないでしょうか。家畜の群れは海岸の草地でえさを与えられ、天幕が張られて、その地は自分たちを率いてきた偉大な指導者にちなんでモリアンカマーと名付けられました。その間に人々が「主の名を呼ぶことを思い起こさなかった」理由については書かれていません(エテル2:14)。しかし、わたしたちは自分自身の経験を振り返ることによって、そのヒントを得るかもしれません。名も知れぬ荒れ野や異郷の海を前にして、さらにそこから新たな地への旅が始まり、愛する者が病に倒れるかもしれないとなるとしたらどうでしょうか。わたしたちの心はへりくだり、祝福を願い求めることでしょうか。そして、その願いがかなえられたときには涙にむせぶのではないのでしょうか。しかし、天幕が張られ、祝福を求める必要性が感じられなくなったとき、主を忘れ、「自分自身の勇気や努力があったればこそ」という気持ちになるのはたやすいことです。周囲の状況を見て、自分をたたえ、成功は己の努力によるものだと考え、大切なものを忘れがちになるのはよくあることです。多くの人々は、人生のかなりの時間を様々な危険なことに費やしています。その危険性は非常に感知しにくく、いともたやすく自分自身を頼む気持ちが出てきます。そして、兄弟や神の勧めを受け入れることが難しくなるのです。

もしモリアンカマーに対して叱責がなかったら、あまり望ましい結末にはなっていなかったことでしょうか。またわたしたちも、はるかに有益な手本を得られなかったことでしょうか。ヤレドの兄弟は悔い改めました。

「そこでヤレドの兄弟は、自分が行った悪を悔い改め、自分とともにいた同行者たちのために主の名を呼んだ。すると、主は彼に言われた。『わたしはあなたを赦し、またあなたの同行者たちの罪を赦そう。あなたはもう罪を犯してはならない。あなたがたは覚えておきなさい。わたしの御霊はいつでも人を励ますわけではない。したがってあなたがたは、罪の熟するまで罪を犯すならば、主の前から絶たれるであろう。これが、受け継ぎとしてあなたがたに与える土地についてのわたしの考えである。なぜならば、この地は、ほかのあらゆる地に勝った

えり抜き^の地だからである。』(エテル2:15)。

悔い改めたことで、へりくだって学ぶ心が戻ってきました。モリアンカマーは、船の建造について前に受けていた指示にまた従い、船内の空気不足の問題も、主の詳細な指示のままに解決していきました。そのとき、彼は光の問題を主の前に持っていきました。その質問に対する主の答えは、謙遜^{けんそん}に学んでいくことについて、ほかの面からも光を投じています。それは、生徒が自分のなすべき分として、進んで予習をすることの大切さと言うことができます。

主は船内に光を与えるための方法を無数に御存じでした。しかし、主は問題の輪郭が明らかになるまで時間をかけ、モリアンカマー自身が解決策を提示するまで、助けを与えられませんでした。ヤレドの兄弟は問題解決のために自分にできるすべてのことをし、その後で主にしてくださいと明確にしました。

「主はヤレドの兄弟に言われた。『あなたがたは、船の中に光があるようにするために、わたしに何をしてもらいたいのか。窓はばらばらに砕けるので、見よ、窓を付けることはできない。また、火を携えることもない。火の光を使って旅をすることはないからである。

見よ、あなたがたは、海の中の鯨のようになるであろう。山のような波があなたがたに打ちつける。しかし、わたしは再び海の深みからあなたがたを連れ出そう。風はわたしの口から吹き出し、また雨と多くの水もわたしは送り出した。

見よ、わたしはこれらのものに対してあなたがたを備えさせる。わたしが海の波と、吹きつける風と、寄せ来る多くの水に対してあなたがたを備えさせなければ、あなたがたはこの大なる深み^{ぬる}を渡ることができないからである。したがって、あなたがたが海の深みにのまれるときに光があるように、あなたがたはわたしに何をもらいたいのか。』(エテル2:23-25)

ヤレドの兄弟は透き通った16個の石を溶かし出して、シーレム山で、問題解決策の一部として、その石が光を発するようになるという、自分にはできないことについて主に助けを求めました。しかし彼は、忙しく動き回っている親に子供が頼むような方法も、教室の席の間を通り過ぎる教師に生徒が頼み^{ねが}事をするような求め方もしませんでした。彼はまず、赦しを求め、次に数々の祝福に感謝しました。そして神の力への信仰を宣言しました。

主はその石に指を触れることによってヤレドの兄弟の

考えた解決法をよしとされました。すると、マホンライ・モリアンカマーの目から幕が取り去られ、彼は主の指を見ました。彼は驚いたものの、主に姿を示してくださいと求めるように求めました。主はその願いを聞き入れ、さらにはこの世の歴史のすべてを示されたのです。ヤレドの兄弟に示された事柄はあまりに驚くべきことで、その記録はわたしたちにそれを受け入れる備えができる時まで封じられています。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は総大会の席上、わたしたちがその祝福にあずかるためにはどうしたらよいかについて、次のように話しました。

「さて、主は教会の会員であるわたしたちを試しの状態に置かれた。すなわち、一部分の記録を『モルモン書』として授け、わたしたち教会員がその中の勧告に従って信仰を確立できるようにされた。そして、わたしたちが一時期のニーファイ人のように、与えられるままに進んで戒めを守って信仰を表すならば、主はほかの記録を世に現して、授けてくださるのである。しかし、それを受け取る備えがわたしたちにできていない。なぜだろうか。それは、すでに与えられた記録を読んでその勧告に従うという点で、わたしたちが試しの状態の条件を満たした生活をしていないからである。」(『大会報告』1961年10月、p.20)

この誇張のない言葉は、「わたしたちはマホンライ・モリアンカマーのように、悔い改めた後も学んでいかなければならない」と、教えているかのようです。戒めを学び、守ることに対する怠惰^{しうかん}、あるいは熱心さの欠如は、ヤレドの民の4年間の弛緩状態に似ていると言えるのではないのでしょうか。

ヤレドの兄弟がしたように、心を開いて学ぶなら、わたしたちは彼が残した霊的な祝福の記録をいつか受けることができるでしょう。この物語は、そのような祝福にあずかるのを妨げている大きな障壁は、霊的な勧告を受け入れなかったり、主を呼び求めることを忘れていたりときに陥る危険への鈍感さである、という点を示唆しているのではないのでしょうか。またこの物語は、これらの祝福に至る大切な道、すなわち信仰についてもよく教えています。主がモリアンカマーへの叱責と教示を示されたそのときの状況と愛が、わたしたちに明らかに示している教訓は、熱心な祈りは聞き届けられるということです。

ブリガム・ヤング大管長は、エテル書に記録されてい



「見よ、あなたがたは、海の中の鯨のようになるであろう。山のような波があなたがたに打ちつける。しかし、わたしは再び海の深みからあなたがたを連れ出そう。風はわたしの口から吹き出し、また雨と多くの水もわたしは送り出した。」(エテル2：24)

る数々の際立った示現に心を奪われることなく、わたしたちがまず最初に学ぶべき教訓に注意を喚起するよう教えています。

「墓地へ行って何十人もの死者をよみがえらせるほどの信仰を持っていたとしても、また、神の指を見るほどの示現を開かれたとしても、それだけで末日聖徒と認められることはありません。では、どうすればよいのでしょうか。神と人の前を謙遜に歩むために、また、悪い行いをやめ、善をなし、神の口から出るすべての言葉に従って生きるために、主の戒めを守るなら、示現を受けるか否かにかかわらず、あなたは末日聖徒と認められるのです。」(Journal of Discourses『説教集』3：211)

この言葉は、「ヤレドの兄弟のように目を見張る示現を受ける人はほとんどいないのだから、自分たちの心に何度も浮かんでくるモリアンカマーのあのときの情景(山上でまばゆい光を放つ石)に、美しい海辺の土地で

静かに過ごしたあの4年の歳月の情景と、3時間に及ぶ主の叱責の情景を重ねて見るように」と勧めているように思えます。海辺の地に張られた天幕は、人跡未踏の荒れ野にいるときや、霊的な嵐の逆巻く大海に飲み込まれるときだけでなく、常に主に頼り、感謝すべきことを思い出させてくれます。そしてわたしたちが子供や伴侶と行う面接よりも長い、あの3時間に及ぶ面接は、わたしたちには忍耐と愛に満ちた教師が与えられていることを思い出させてくれます。自分の必要を感じ取る心と主の助けに対する信仰があれば、わたしたちは学ぶことにたけたあのヤレドの兄弟から、大切な教訓を学べるはずで

す。ヤレドの兄弟はその最後の行いからも分かるように、生涯にわたって素直に受け入れる姿勢を持ち続けました。彼は、民に王を与えるようにとの、兄弟の勧めを受け入れました。自分自身は、そうすることで民が囚われの状態に陥る、と確信していたにもかかわらずにです。また、自分自身の力と天から与えられた未来への示現があったにもかかわらず、モリアンカマーは揺るぎない勧告をさらに求めました。明らかに、わたしたちが天につける事柄を学びすぎてお互いから何も学べないということはありません。□

妻に奉仕することの意味

「妻に奉仕する」とは、妻の必要を知ることであって、妻から助けを求められるのを漫然と待っていることではありません。彼女のおかげでそれが分かりました。

ゲリー・L・グレイ

妻のクリスとわたしは、18年以上にわたって最良の友として、また伴侶として生活してきました。結婚生活の浮沈をともに支え合い、喜びも悲しみも分かち合い、7人の子供たちと一緒にキリストを中心とした堅固な家庭を築こうと努めてきました。

ですから、神権指導者会で「妻に奉仕する」というテーマで話す責任を与えられたとき、わたしはとても燃えました。教義上大切なポイントを幾つか押えて骨組みを作り、福音を解説する箇所も入れ、力強く、福音を中心にしたすばらしい原稿ができたと思いました。結婚生活と家族の永遠性を核にして、女性の役割に関する預言者の言葉をまとめ、女性を助ける男性の責任を強調しました。

ある日、わたしは仕事を終えた後も職場に残り、話の細部に手を加えてから、弾む気持ちで帰途に就きました。妻のクリスはこれまでずっと「最初の聴衆」でした。集会で実際に話す前に、わたしがまとめた話と考えを彼女に聞いてもらうのです。わたしは妻の支えと励ましをいつも心のよりどころにしてきました。きっと彼女はこの話を気に入ってくれるだろう。そう思いながら家路を急ぎました。

「クリス、少し時間をくれるかい。」ドアを開けて家に入るなり、そう切り出しました。

「お帰りなさい。すぐに行くわ。夕食の準備ができたらね。」台所から妻の返事が聞こえます。

居間に入り、郵便物を手にしていると、妻が子供たちに何かを言いつけている声が聞こえます。シャノンには夕食の準備を手伝うように、キャシーにはテーブルの準備をするように、2歳のケイトリンには服を着るように、と言っています。

「はい、いいわよ。」クリスはわたしの背中に手を回し、軽くキスをしながら言いました。

「うん、今度の神権指導者会で話の責任を与えられてね。原稿を読むから、意見を聞かせてほしいんだ。そして……。」

「ちょっと待って。」妻は台所に向かって、子供たちに少し大きな声で言いました。「シャノン、お肉が焦げているようなにおいがするけど。キャシー、テーブルの準備は終わった？ ブライアン、ケイトリンを見てください。」

妻はわたしの方に向き直ると、「ごめんなさい。今日は子供たちに振り回されて大変だったのよ。1度言えば済むようなことを一日中言い続けているの。ところで、何の話でしたっけ。」

わたしはほほえみを浮かべると、もう一度最初から話し始めました。「実は今度お話を……。」

そのときブライアンが入って来て、ケイトリンの服が見当たらないと言いました。クリスはブライアンに、洗濯室に畳んでしまっている中から探すよ





うに言い、ついでに洗濯物を洗濯機に入れて回すように言いました。わたしが次の言葉を口にする前に、今度はケイトリンが楽譜を持って走って来ました。クリスが合唱コンクールで使うために注文していたものです。

「ちょっと、それはだめ。」100枚ほども楽譜の入った箱を、急に取り上げようと思いました。「1日ばかりで、息継ぎの箇所と歌詞の注意点に印を付けたのよ。ケイトリンに落書きされたら、たまらないわ。」

「とにかく、わたしの話だけど……。」妻が戻って来ると、わたしは話を続けました。「テーマはね、『妻に奉仕する』なんだ。神権者はどうしたらもっと妻に奉仕できるか、意見を聞かせてくれないかなあ。そうしたら、自分の原稿の内容がどれくらい核心に迫っているか分かると思うんだ。」

「あなたの考えを先に聞かせてください。」台所から聞こえてくるやかましい雑音に混じって妻が言いました。

「まだ大ざっぱな原稿なんだけどね。君の考えを聞いたら、話の足りない部分が見えてくると思うんだ。だから、妻は何をいちばん必要としているか聞かせてほしいんだ。」

クリスは少しの間考えてから、次のように言いました。「妻というものはね、家族みんなのために働いているとき、喜んで手伝ってくれる人を必要としていると思うわ。掃除、料理、買い物、子育て、整理整頓を不平を言わずに快く手伝ってくれて、必ずしもねぎらいや感謝の言葉がなくても喜んで手伝える人ね。そういうことはあなたのお話に入っている？」

「いや、入れていなかった。」思わず目を伏せてしまいました。

妻はさらにテーマの核心を突いてきました。「そんなふうには手伝ってくれる人は、きっと家族の一人一人が何を必要としているか、予測できる人でしょうね。子供が親の関心を必要としているときに、自分のことを後回しにできる人よ。きっと、家族の気持ちをすぐに見抜ける人だと思うわ」と続けました。

「それもわたしの話にはないよ。」しかし、わたしの話にだって、大切なことがたくさん盛り込まれているはずです。「じゃあ、神権はどうかな。妻にとって、夫が神権を持っていることは、大切だよな？」

妻はにっこりしました。そのほほえみはわたしが大切な点を見落としていないことに安心したしるしだったのでしよう。

「そうよ。わたしにとって大きな意味があるわ。でも大切なことは、ただ神権を持っているだけじゃなくて、神権を使うことよ。神権者は神権を行使して、妻をどのように祝福できるか考えるべきだと思うわ。妻というのはね、夫に助けを求めたり力を貸してもらったりしなくちゃいけなくなったとき、夫は妻の必要にほんとうに気づいてくれているのかしらって、不安になるものよ。妻の必要や、感情の起伏、日々受ける試しに心を配ってくれる夫を持つ妻は、自分が大切にされているって感じるでしょうね。」

「ありがとう。」わたしは妻に礼を言ってキスをし、さらに意見を求めてこう言いました。「ほかに奥さんに奉仕できることって、あるかなあ。」

「二つあると思うわ。」クリスは言いました。「まず、夫は妻の言葉に耳を傾けること。奥さんがテレビや新聞やほかのじゃま者と競争しなくても、ご主人と話ができることね。ご主人は永遠の伴侶が言おうとしていることに、心から耳を傾けてほしいわ。もしわたしたち夫婦が永遠に一緒にいるつもりなら、お互いの考え、意見、悩み、不満、それに希望も知っておかなくてはいけないでしょう。」

わたしはまだ郵便物を握り締めていたことに気づいて、テーブルにそっと置きました。

「二つ目はね、妻をひたすら愛してほしいの。目の回るような忙しい1日が終わって、気が短くなっているときや、心に不満が残っているときの妻を愛してほしいの。夕食を焦がしてしまったかもしれないし、自分で自分が嫌になっているかもしれないし、妊娠4か月半になったときにもう一人子供を育てられるかどうか自信がなくなっているかもしれない、そんな妻をありのまま愛してほしいの。」

その夜、わたしは話の原稿を書き直しました。奉仕というのは、妻が助けを求めてきたときにだけ助けることではない、という点を強調しました。スペンサー・W・キンボール大管長が語ったように、まことの結婚生活は「与え、奉仕し、分かち合い、犠牲をささげ、利己心をなくすことによってもたらされる」幸せという土台の上に築かれます (Marriage and Divorce『結婚と離婚』p.12)。妻はわたしにそれを思い出させてくれました。□

聖約による受け継ぎ

「あなたはわたしの永遠の聖約、すなわち……わたしの完全な福音を受け入れているので、幸いである。」(教義と聖約66:2)

中央若い女性第二副会長のボニー・D・パーキン姉妹は、天父がわたしたち一人一人を祝福してくださっているのを目にしてみました。パーキン姉妹がそれを知っているのは、「天父が優しい御手を伸ばして、わたし……を支え、助けてくださったからです。……また約束や聖約を交わし、守ることによってわたしの人生が変わったからです。」(『聖約を記念する』『聖徒の道』1995年7月号, p.84参照)

聖約とは、神とわたしたちの間で、互いに交わされた約束です。神がまず先に聖約し、条件を定め、わたしたちを祝福すると約束され(教義と聖約82:10; 98:3; 130:20-21参照)、神が任命された神権者を通してその聖約は履行されます。一方、わたしたちは、聖約を守ると約束し、そのとおりに行うときに、祝福を受けるのです。そして、わたしたちの努力は、主の業を推し進めるだけでなく、わたしたち自身が天父のようになるためにも役立ちます。

神の相続人となる

普通、儀式を通して示される聖約を交わすことにより、わたしたちは神と神聖な関係を結びます。例えば、バプテスマを受け、聖霊の賜物を頂くことにより、わたしたちは「キリストの子」(モーセ6:64-68; モーサヤ5:7参照)と見なされます。そのような者として、わたしたちは「神の相続人であって……キリストと共同の相続人」と

なるのです(ローマ8:17)。聖餐を受けるときに、わたしたちはこの聖約を思い起こし、いつもイエスを覚えるように招かれ、そうすれば聖霊を伴侶にできるという約束を与えられます。また、神殿での儀式を通して、わたしたちは霊的に成熟し、日の栄えの王国で昇栄するための備えとして役立つ、さらに多くの聖約を交わせるのです。

「喜び……聖約を 固守りなさい」

神との聖約に入ると、わたしたちは天父のすべての子供たちに福音のメッセージを伝える使者となります。これを行う方法にはいろいろあります。その中で最も基本的な方法は、伝道活動と家族歴史活動です。主から与えられた手段を通して自分自身と家族を完全な者とする努力も大切です。わたしたちに与えられた大いなる召しは、キリストのもとへ行き、ほかの人もそうできるように助けることです。それは多くの場合、ただ行くべき所へ行き、実行するように聖約を交わした事柄

を行うことでなされるのです。

ローズマリー・カーティス・ナイダー姉妹は、忙しい毎日を過ごし、月末になってまだ家庭訪問に行っていないことに気がついたときの思い出を紹介しています。電話をかけて済まそうかという気持ちになりましたが、訪問をするようにとの促しを感じました。ナイダー姉妹は、あまり活発ではない姉妹の家を訪ね、救い主がニーファイの民を訪れた箇所を読んであげたいと思いました。ナイダー姉妹はこう述べています。「彼女は予想以上に長い間、聖文に集中していました。何度もこう言いました。『後でもう一度この箇所を見つけれられるように、紙を挟んでおきましょう。そうだわ、ここにも挟んでおくわ。』

あのときの気持ちをどう表現したらよいでしょう。彼女の家に御霊が注がれているのを強く感じました。そして、自分の多忙なスケジュールはもう大した問題ではなくなっていました。わたしは感謝の念で満たされ、その後何日も力が増し加えられるのを感じました。」(To Rejoice As Women: Talks from the 1994 Women's Conference 『女性としての喜び——1994年、女性の大会での講話』pp.67-68)

わたしたちが聖約を交わした女性として「喜び、[自分の]交わした聖約を固く守るのはごく当然のことです。なぜなら、聖約を守るときに、わたしたちは「義の冠を受ける」と約束されているからです(教義と聖約25:13-16)。

●聖約を交わし、それを守ること
はなぜ大切なのでしょう。

●あなたの人生に喜びをもたらしたのは、どの聖約ですか。□



レッスンの準備

レッスンの間際まで準備を引き延ばすのが、習慣になっていませんか。もしそうなら、たぶん時間に責め立てられているような気持ちに悩まされていることでしょう。この悪循環から逃れたくありませんか。幾つかのアイデアをご紹介します。

レイ・L・ラーセン

福音を教えることに喜びを見いだす人は多いですが、教師にはもう一つ、特別な楽しみがあります。準備の喜びです。多くの人は準備を退屈なものと考え、ぎりぎりまで引き延ばしがちです。それはまるで急いでお祈りをするようなものです。ぎりぎりになってから準備を始めるためにしばしば、深みのない、あまり効果的でないレッスンになってしまいます。

わたし自身もそんな準備をした経験があります。逆に、レッスンの準備をしていて、大きな喜びを感じたこともあります。わたしは準備の時間が、意義ある祈りをし、深遠な思想を培う機会になること、また、神を礼拝し、思いを巡らせ、理解を深め、靈感を授かる楽しい時間であることに気づきました。

もちろんそんな経験が、何もせずに得られるわけではありません。効果的に、しかも楽しんで準備をするには、周到に計画し、原則に忠実でなければなりません。わたしの場合、以下のレッスン準備法が効を奏しています。

1. 最低1週間前にはレッスンに目を通す。このときは、見出し、重要な聖句、そして一般的な概念を把握するだけでよいのです。いったん中心となる概念と聖文が分かれば、それから丸1週間、その概念を現代の生活にどう応用するかを考えながら過ごすことができます。そして、思いついたことをメモしておきます。座って最終的なレ

レッスンの準備を始めるころには、レッスンの内容に関して個人的なアイデアや思いを持つことができるはずで

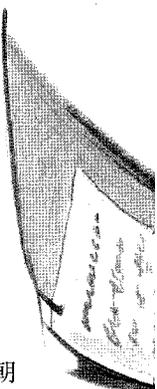
2. 勉強し準備する場所を決める。わたしは食堂のテーブルでレッスンを準備します。毎週同じ場所で準備をするので、以前の楽しかった経験や、霊的な経験を思い出すことができます。以前のレッスンの準備を思い出すと、研究の意欲がわいてきます。周りに人がいないことも大切です。わたしは早朝に準備するのが好きですが、じゃまされずに静かに考えることができれば、いつでもかまいません。

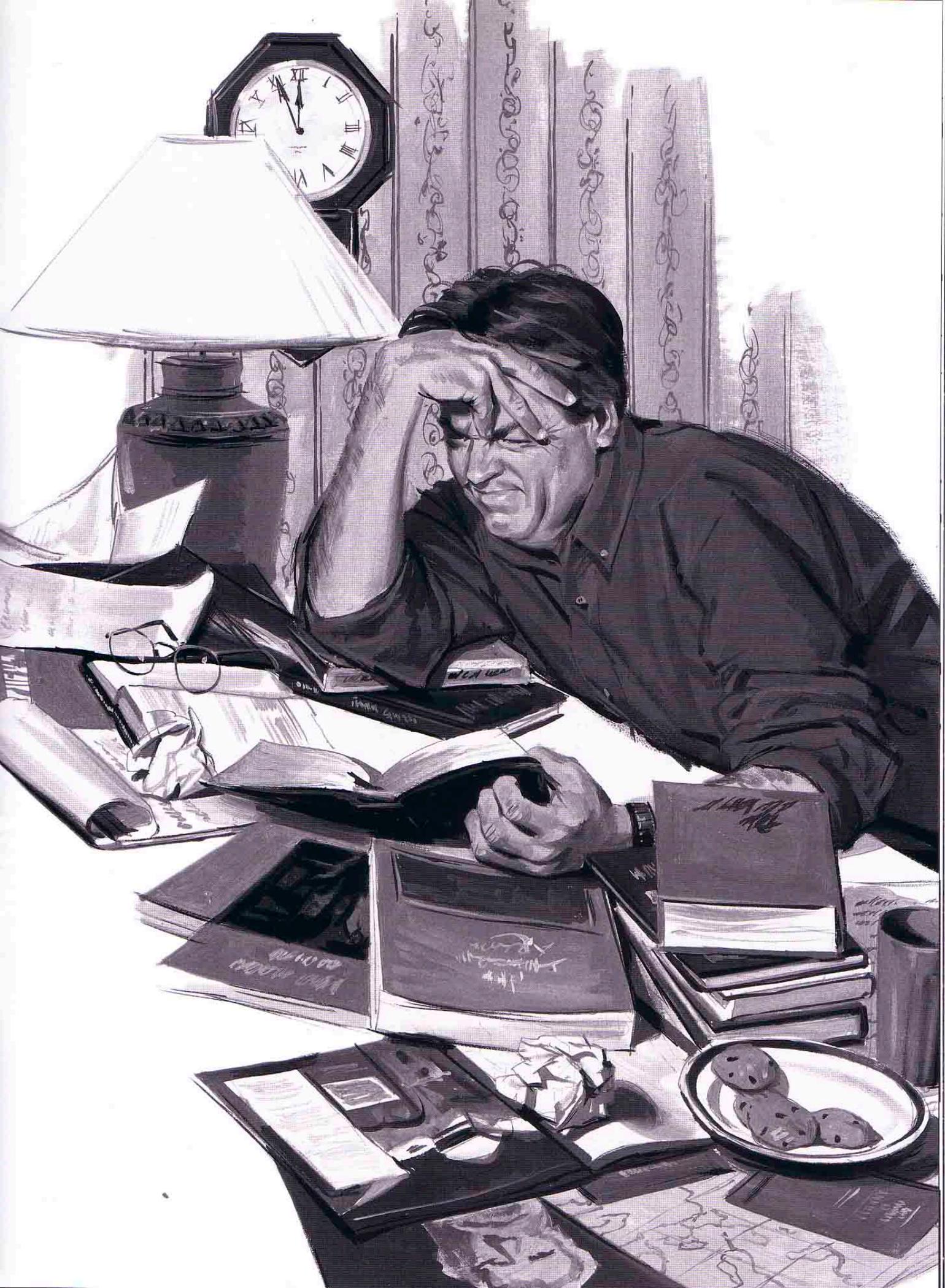
3. 必要な本や、そのほかの資料を集める。もちろん聖文や教師用手引きは欠くことのできないものですが、教会の機関誌や、そのほかの資料も手の届く所にそろえておくと、精神的にも準備に集中できます。

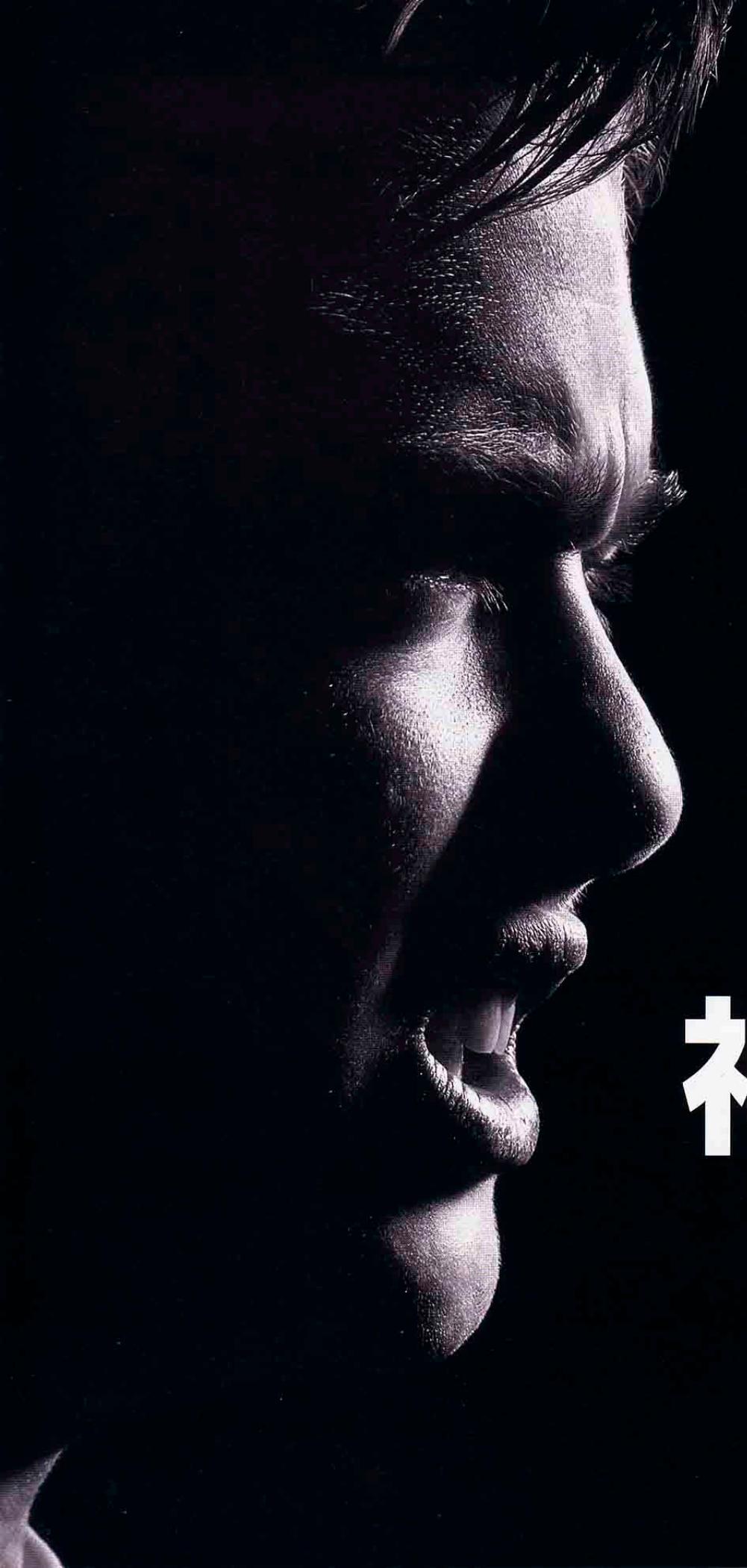
4. 準備しながら、深く考え、祈る。そうしていると、よく、新たな理解がもたらされます。さらに深くレッスンの内容を掘り下げて研究を続けると、どのようにレッスンを教えるべきかがいっそう明らかになってきます。

5. 概念を整理して、実際にレッスンを組み立てる。このように段階を踏むことで、レッスンの時間内では教え切れないほど、多くの事柄を学べるものです。そして、準備の最終段階として、準備したことを整理して、大切なポイントを忘れないように実際のレッスンを組み立てるのです。

どのようなレッスンを教えるにせよ、準備が必要なことに変わりありません。効果的に準備すれば、「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって」教えることができ、教師も生徒も「互いに理解し合い」、「教化されて、ともに喜ぶ」ことができるようになるでしょう（教義と聖約50：14、22）。□







七十人
ロバート・K・デレンバック

PHOTOGRAPHY BY WELDEN ANDERSEN

わ わたしが中学校でバスケットボールの代表チームに入れたことは、スポーツに関してはこれまでで最も輝かしい功績と言えるでしょう。チームの一員になり、ほかの選手と一緒に練習できるだけでうれしく思いました。

ある日練習中に起きたことは、今でも覚えています。チームメートの一人がパスを外し、次のパスも失敗しました。そのときです。彼は神を冒瀆する言葉を使ったのです。コーチは聞き逃しませんでした。

フィッシュバーンコーチは、わたしがこれまで会った人の中で最も傑出した人物です。聡明な人で、バスケットボールのことも若い男性のことも、よく理解してくれました。練習後、コーチは全員を集めて練習のことを話しました。その中で神を冒瀆する言葉について触れました。コーチはこう言いました。「優秀なスポーツ選手は神を冒瀆する必要は決してありません。神を

ぼ う
神を冒

冒瀆する言葉を使うと、その選手の値打ちを下げるだけでなく、弱い印象を与えてしまいます。立派な人に汚れた言葉は無用です。ほかの人から軽く見られるだけです。」

わたしのバスケットボール人生は短期間でしたが、フィッシュバーンコーチの言葉は、わたしの心にずっととどまりました。「立派な人に汚れた言葉は無用です。」

最近、ラジオで次のようなニュースを聴きました。「科学者たちは今日、人間の脳の中のをぞく方法を新しく開発した、と発表しました。」それは病気の診断に用いる先端技術の治療機器に関する話題でした。

しかし科学者たちに知らせたいニュースがあります。人は口を開く度に、頭の中で考えていることをあらわにしているのです。原始的な方法ですが、とても正確で、脳よりもっと深い部分を知ることができます。本人の霊の状態をかいま見ることができるので

す。これはほんとうです。言葉遣いや話し方に、奥深くにある自分のほんとうの姿が現れるわけです。

だれかとしばらく話ただけで、相手に対して何年も続くような印象を持ち始めはしませんか。ほかの人があなたと話すときも、同じことが言えます。そのときに長期にわたって影響を及ぼす印象が形成されます。精神を高めるような言葉を聞けば、相手はあなたとあなたが代表するものに対して、好印象を抱くでしょう。しかし彼らの聴く言葉が、神を冒瀆し品格を損なうものであったとしたらどうでしょう。

トムという人がいました。彼は、息子のマイケルとマイケルのサッカーチームのメンバーを何人か、車で土曜日の試合に連れて行くことになりました。少年たちは車の中ではしゃぐし、トムは行ったことのないサッカー場がなかなか探せず、いらいらしていました。運転に集中できず、トムはほかの車と接触してしまいました。大きな事

故ではなかったのですが、トムはいらいらを爆発させ、冒瀆的な言葉を吐きました。

その日の午後、幼いマイケルは母親に、お父さんは教会員かどうか尋ねました。善いモルモンは神を冒瀆しない、とマイケルは教わっていたのです。母親は驚いて答えました。「もちろん、あなたのお父さんは教会員よ。」

マイケルは答えました。「じゃあ、パパはモルモンかもしれないけど、カブスカウトじゃないよ!」

あなたの言葉を聞いて、「モルモンかもしれないけど、クリスチャンではない」と思った人はいないでしょうか。

神を冒瀆する言葉は、百害あって一利なしです。一般には神を冒瀆する言葉は耳障りで品位を下げると受け取られているので、そのような言葉を使えば無神経さを表していることになります。人は神を冒瀆する言葉を我慢するかもしれませんが、それによって感銘を受けることはなく、神を冒瀆する人

とく 冒瀆する言葉

祈り、証、^{あかし} 聖餐^{せいさん}の祝福、これらは皆同じ口から出てきます。口を清く保てるように気をつけましょう。

言葉遣いや話し方に、奥深くにある自分のほんとうの姿が現れます。

に敬意を払わなくなるのが普通です。

神を汚す言葉のほかに、それと同じ程度にあるいはそれ以上に有害な言葉もあります。人種的理由、身体的な障害による理由、あるいは単に仲間となじめないというだけの理由で、人をのける言葉がそれに当たります。救い主は人種、外見、社会的地位に関係なくすべての人を愛していらっしゃるのです、そのような言葉を使えば明らかに救い主を傷つけることになります。

当然、最も不快な言葉は神性を卑しめる言葉です。天父と救い主の名をみだりに唱えることは、大きな罪です(出エジプト20:7参照)。わたしたちが神の名を汚すなら主が快く思われないのは確かです。

むしろわたしたちは、主をほめたたえ、主に祈るように言われています。祈りは最も美しいコミュニケーションの形です。神を冒瀆する言葉とまったく対照的であり、同じように、人の最も奥深い姿を明らかにします。賛美歌にあるように、祈りは「魂の見えぬ望み」を表します(『賛美歌』83番)。

イエスが復活してニーファイ人を訪れられたとき、天父に語りかけられた言葉を想像できますか。救い主が天父にささげた祈りほど美しい言葉が、ほかにあるでしょうか。「わたしたちはイエスが話されるのを見聞きしたが、それはどんな舌も語ることができず、どんな人も書き記すことができず、人々の心が想像できないほど、大

いなる驚くべきことであった。」(3ニーファイ17:17)

これでわたしたちは言葉遣いの両極端の例を見ました。最も下劣な言葉遣いの例は、神を冒瀆したり、主の名をみだりに唱えたりすることです。最も崇高な言葉遣いの例は心から天父に祈ることです。

大管長会は、1887年に、教会員にあてた書簡の中で次のように述べています。「一部の若い人々が陥っている習慣であるが、下品な言葉や神を冒瀆する言葉を使う習慣に、注意を向けなければならない。……そのような習慣は品位ある人々に不快な思いをさせるだけではなく、神の目から見ても重大な罪であり、末日聖徒の子供たちの間にあってはならない。」

宣教師たちは、第一印象を与える機会は1度しかない、と教えられています。宣教師たちが何をどう語るかによって求道者たちは、宣教師自身、宣教師の家族、そして教会について強い印象を受けます。わたしたち一人一人にとっても事情は同じです。言葉にはわたしたちの、相手への思い、自分自身への思いが表れます。

言葉は様々な点で、わたしたちの思いやほんとうの姿を写しています。主の教会の会員として、わたしたちはいつも、主と周囲の人々が耳を傾けていることを、心に留めておこうではありませんか。□



お父さんのテスト

キャロリー・H・スミス

先日、庭で草取りをしていると、6歳の息子が学校の遊び時間に覚えてきた下品な言葉を使っているのを耳にしました。それまでは、子供たちがそのような言葉を使うのを聞く度に、「そんな言葉を使うと怖い目に遭うわよ」と言って脅かしたり、しかったり、説教したりしていました。でもその日、わたしの頭に新しいアイデアが浮かびました。

わたしは息子に「こっちに来て、お話ししましょう」と言いました。そして、「お父さんがそんな言葉を使うのを聞いたこと、ある？」と尋ねました。息子は首を横に振りました。「善くない言葉を使う人はたくさんいるけど、お父さんはそのような言葉を決して使わないことで、模範を示しているのよ」と説明しました。下品な言葉が当たり前に使われる夫の職場でさえ、彼がそのような言葉を好まないことを、だれもが承知していました。そして、夫の周りでは丁寧な言葉だけを使うのでした。

幼い息子とわたしは新しい家族のルールを決め、それを「お父さんのテスト」と呼ぶことにしました。使ってよい言葉かどうか疑問に感じたとき、夫（お父さん）ならこの言葉を使うだろうかと考え、その答えに従って行動するのです。

庭で草取りをしたあの日から、わたしたちは家庭で「お父さんのテスト」を度々行うようになりました。今では、下品な言葉聞く機会はめったになくなりました。「お父さんのテスト」ができるような模範を示してくれた夫に、とても感謝しています。□



溝の中の敵

ジョン・バイザウエイ

高校時代、わたしはけんかをしたことが一度もありません。今でもけんかをしなくてよかったと思っています。あまり体が大きい方ではありませんし、切り傷や打ち身を作るようなけんかには、何ら喜びを感じません。

しかし学校からの帰宅途中、一度だけ数週間に及ぶけんかをしたことがあります。相手の背丈はたったの28センチ。それでもわたしの経験の中ではいちばん激しい戦いでした。その相手とは、実は1冊の雑誌だったのです。

わたしの通っていた高校は、自宅の玄関から見える所にありました。ですから毎日家と学校の間を歩いて行き来していました。ある日の午後、車道と通学路とを分けている細長い芝生をまたいで渡ろうとしたとき、縁石のそばに開いたままの雑誌が落ちているのが目に留まりました。最初は何なのかよく分かりませんでした。やがてそれがポルノ雑誌であると分かりました。わたしは即座に顔を上げると、そのまま家に向かって歩き続けました。

こうして戦いの日々が始まりました。それからは、毎日、登下校の途中、溝に横たわった誘惑と戦わねばなりませんでした。

今から考えると、どうしてその雑誌をすぐに拾い上げて捨てなかったのかとも思いますが、触る気にもなれなかったのです。だれかにそのような雑誌を持っているところを少しでも見られたらどうしよう、我が家のごみ箱に捨てられているのを父に見られたらどうしよう、拾い上げた後で当初の自分の気持ちとは裏腹にじっと見入ったらどうしよう、などと考えていました。

毎日心の中にもっともらしい言い訳が思い浮かびました。「世間に対する見識を深めるため、そういう本の内容を知るのもいいことではないか。」「過保護な、何も知らない男の子にはなりたくない。結局のところ、何も害にはならないはずだ。後で悔い改めれば済む。だれも見ていないから大丈夫」と。

そんなある日、セミナーの教師が、イエスは一つ一つの誘惑に聖文を使って対処されたことをレッスンで強

調しました。すばらしい考えだと思いました。

自分の聖典に目を通すうちに、わたしは誘惑と闘うことについて触れた、次のような聖文を見つけました。「あなたがたは主の御前にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈りなさい。」(アルマ13:28)

『新約聖書』にも次のような役立つ聖文がありました。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(1コリント10:13)

謙遜になる、目を覚まして絶えず祈る、誘惑から逃れる道を探せるよう神が助けてくださることを信じる、このような方法をわたしは実践しました。そして、別の場所から道を渡るようにしました。その雑誌は相変わらず溝に落ちたままでしたが、先に述べた二つの聖文に助けられながら、日々が過ぎて行きました。

ある日の午後、縁石を越えようとしたわたしは、あの雑誌がなくなっているのに気づきました。溝の様子から見て、清掃車がつい最近そこを通ったことは明らかでした。「清掃車か、……実にいい時に来てくれたものだ」と、わたしは思いました。

神はわたしのためにほんとうに逃げ道を作ってください、主の助けのおかげでわたしは戦いに勝てました。好奇心、言い訳、怠惰も、勇気や自制、きょうじんな精神にはかきません。

肉体的な闘いに勝利を治めるには、体力、筋力、技術が求められますが、誘惑との闘いほどしれつなものはほかにありません。しかし、高校時代に一度もけんかをしたことのないわたしでも、聖文の助けを借りて、身の丈わずか28センチほどの雑誌という敵を打ち負かすことができました。誘惑との闘いに勝利した喜びほど甘美なものはない、ほかにありません。□



ILLUSTRATED BY ROGER MOTZKUS



命の木

リーハイの夢——示現を芸術的に表現する

「見よ、わたしは夢を見た。別の言葉で言えば、示現を見た。」
(1ニーファイ8:2)

『モルモン書』の預言者リーハイはこれらの言葉で始まる話の中で、子らに対する神の愛と、子らがみもとに帰るよう神が望んでおられることを証する、神聖な示現を明らかにしています。示現の中で神の愛は1本の木に象徴され、「その実は人を幸せにする好ましいもの」でした。リーハイの妻サライアと彼らの息子のうちの二人、サムとニーファイは、リーハイの招きに応じて木の所へやって来ました。けれども、悲しむべきことにリーハイの反抗的な息子レーマンとレムエルは「わたしのところに来てその実を食べようとはしなかった」のでした。

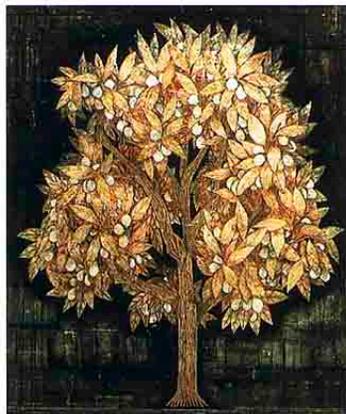
「群れ集まる無数の人々」が木の所に通じる命の道を歩いていました。しかし、その多くが道に迷ってしまったのを、リーハイは見ました。象徴的な鉄の棒にすがりついた人々は最終的に

木の所までたどり着き、その実を食べました。「わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた」とリーハイが語った実を食べた後で、多くの人は「禁じられた道に踏み込んで……しまった」のです。この多くの人は「一つの大きく広々とした建物」いっばいに詰めかけた人々からあざけり笑われて、道を外れてしまいました(1ニーファイ8:2-35)。

リーハイの息子ニーファイは同じ示現を見て、その象徴の解き明かしを受けました(1ニーファイ11-14章; 15:21-36参照)。ニーファイの解き明かしに基づいてリーハイの示現を想像した全世界の末日聖徒の芸術家たちは、長年にわたってその証を様々な手段で表現してきました。これから紹介する作品は「神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることを」わたしたちに思い起こさせてくれます(1ニーファイ15:25)。

左ページ——「リーハイの夢」1995年、カート・シュクピスト作(スウェーデン、モクフィエルト)。木彫り。彩色(157×101×101センチ)。「まるで一つの世界かと思われるような、大きく広々とした野原」というリーハイの言葉を球体で表し、その上に寓話が描写されている。左下——「命の木」1990年、魚田一人作(日本、大阪府)。板

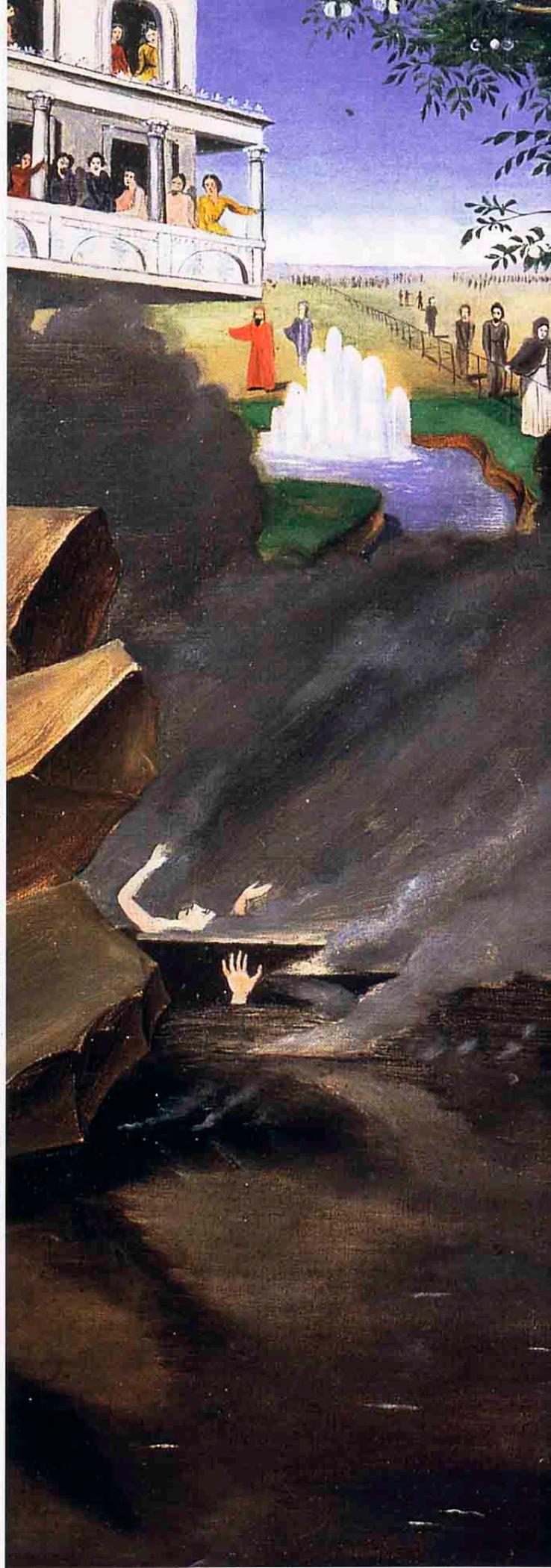
に絵の具としっくい¹で描かれている(139×138センチ)。右下——「リアホナ」1990年、ローエル・フィット作(アメリカ合衆国、カリフォルニア州サンラモン)。金属とガラス製(16×11×11センチ)。リアホナは荒れ野でリーハイを導いた。作者のイメージしたリアホナの頂上に、命の木が見られる。



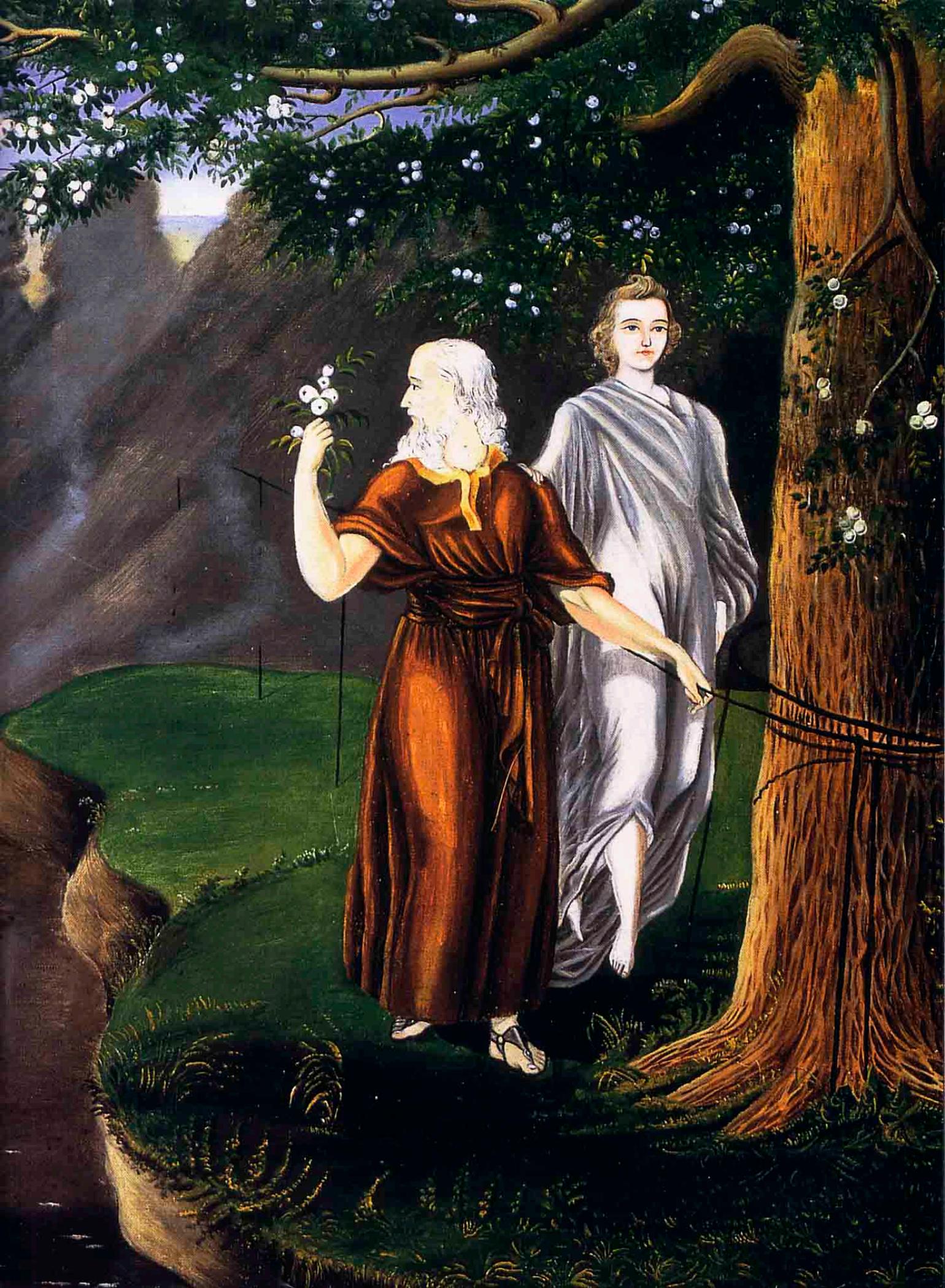
INFORMATION FOR THIS ARTICLE COURTESY OF MARK STAKER, MUSEUM OF CHURCH HISTORY AND ART



上——「ジョセフ・スミスと命の木」
 1987年、ホアン・M・エスコベド作
 (アメリカ合衆国、ネバダ州カレンテ)。板・油彩 (127×76センチ)。メ
 キシコ民族芸術で表現された命の木。
 預言者ジョセフ・スミスが命の木へと
 通じる道に導いている。下——「鉄の
 棒と命の木」1994年、ナバホインディ
 アン芸術家ハリソン・ベゲイ・ジュニア
 作 (アメリカ合衆国、ニューメキシ
 コ州エスパノーラ)。陶器 (23×18×
 18センチ)。右——「リーハイの夢」
 1875年ごろ、デビッド・ハイラム・ス
 ミス作。画布・油彩 (61×45センチ)。
 作者は父の預言者ジョセフ・スミスが
 1844年に殉教して数か月後に生まれ
 た。絵の中でリーハイは「主の御霊」
 に伴われている (1 ニーフай8：5
 -6；11：11参照)。



COURTESY OF REORGANIZED CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER DAY SAINTS ARCHIVES, INDEPENDENCE, MISSOURI. PHOTOGRAPH BY R. T. CLARK



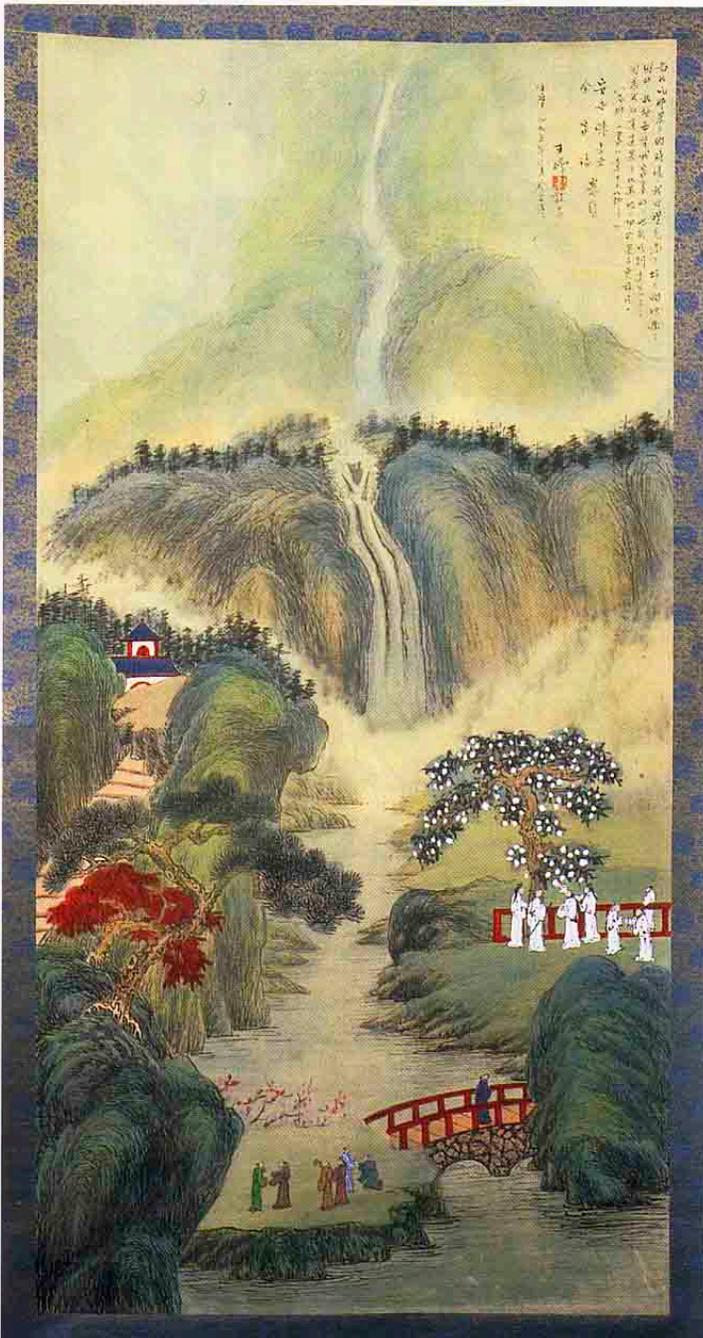
右——「リーハイの夢」1984年，ダー・チャーチャー作（カナダ，ブリティッシュコロンビア州ビクトリア）。通草紙上にみつろうで描かれている（71×61センチ）。作者は，実り豊かな命の木を求めて旅したある者たちが，絵の右手に見える，実を結ばない木のある場所に迷い込んだことを表している。



左——「命の木」1995年，王修^{ワケンシユ}作（台湾，彰化）。絹布上にテンペラ絵の具で描かれている（170×68センチ）。この山水画は家族と福音を分かち合う喜びに焦点を当てている。文字はニーファイ第一書第8章12節の聖句を引用。

下——「リーハイが見た命の木の示現」1992年，ロバート・イエロー^{ロバート・イエロー}作（アメリカ合衆国，アリゾナ州スノーフレーク）。キャンバス上の油絵（121×76センチ）。作者は，アメリカ先住民がリーハイの子孫であるという信条を表現するために，伝統的な要素を盛り込んでいる。

右ページ——「^{たしいち}聖文に親しむ」1993年，青葉太一作（日本，愛媛県西条市）。陶器（35×26×10センチ）。リーハイの見た命の木の示現の周りには，『モルモン書』に登場するほかの重要な物語が描写されている。







「命の木」1995年、ジェロニモ・ロサノ・ロサノ作（アメリカ合衆国、ユタ州ソルトレーク・シティ）。

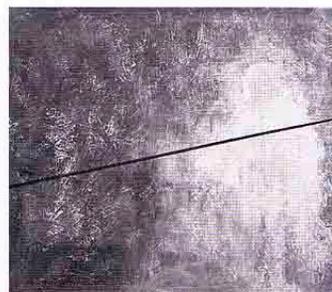
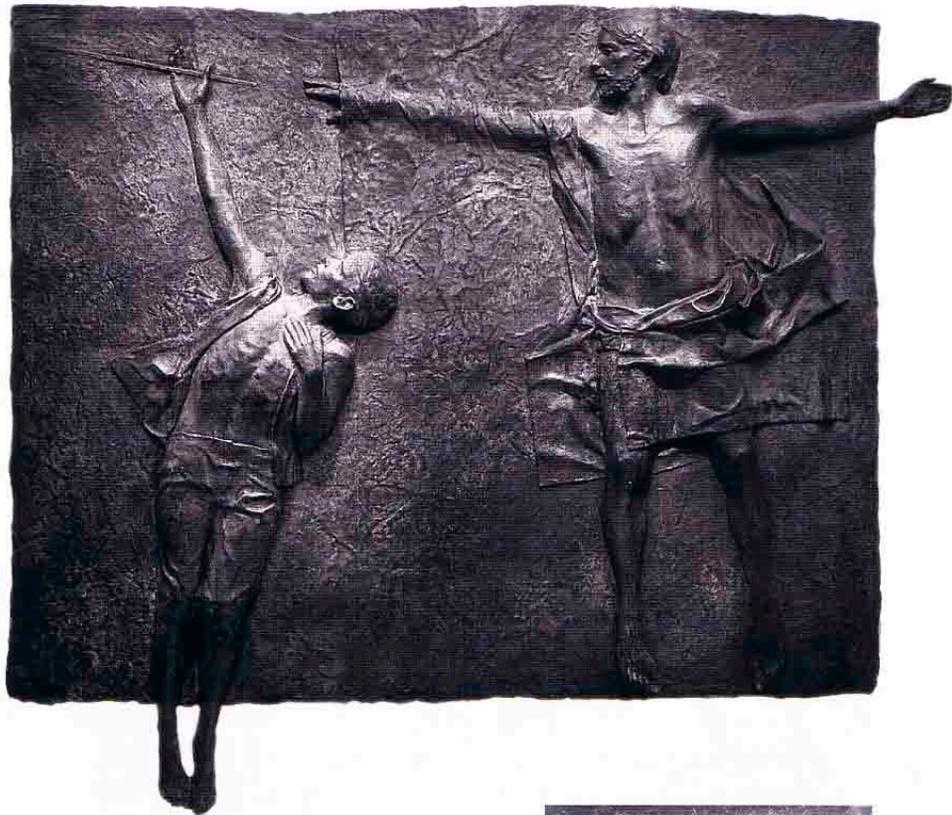
板に石膏ペーストで制作（122×96×18センチ）。

ペルーで祭壇の背後に置かれる伝統的な棚の仕切りを利用したもの。

作者はリーハイの夢を、順を追って描写している。

右——「棒と幕」1975年，フランツ・ヨハンセン作（アメリカ合衆国，ユタ州プロボ）。ブロンズ鑄造（252×213×16センチ）。はりつけにされた救い主の手は，死と不死の間の幕を通して，鉄の棒に伸ばされている。少年は棒につかまろうと，懸命に全身を伸ばしている。

下——「命の木」1994年，アブ・ハッサン・コンテ作（シエラレオネ，フリータウン）。アププリケ（152×99センチ）。アフリカでは昔から，物を交換する際に，その契約を神聖に結び固めるための媒介物として牛が用いられる。ここでは白髪のリーハイが主と交わす聖約を，牛によって表している。右上のリーハイの家族は木に至る道を歩いているが，レーマンとレムエルおよび腰かけている二人はこの世のことにのみ心を奪われている。



PHOTOGRAPH BY R. T. CLARK



上——「鉄の棒」1989年，ヨハン・ヘルゲ・ベンシン作（ドイツ，ホッシュタート）。画布・油彩（78×71センチ）。作者はリーハイの夢に登場する一つの象徴だけを，集中して描いている。鉄の棒が，救い主を表す輝く人物に向かって伸びている。□

ヨセフの息子, ヨセフ

J・トッド・マーティン, リサ・A・ジョンソン



聖典から聖句が飛び出して来るように感じたことがありますか。自分の特別な状況にぴったりの助言や励ましを与えてくれる聖句です。まるで自分のために特別に書かれたような、そんな聖句。

ハンガリーのミシュコルツに住むシャモスファルビー家族も、そんな聖句に出会った経験があります。ヨセフ・シャモスファルビーと、同じくヨ

セフという名の父親は、ニーファイ第二書第3章15節を読む度にほほえみます。末日に福音が回復されるというエジプトのヨセフの次のような預言です。

「その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。そして、彼はわたしのような者である。主が彼の手により、主の力によってもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。」

もちろんシャモスファルビー親子は、この聖句がジョセフ・スミス・ジュニアとその父を指していることを知っていますし、謙遜なハンガリー人の二人には、自分たちをこの聖句に当てはめるなど思いも寄せません。それでも名前が同じなのは確かです。主の力が二人とともにあり、彼らが人々を福音に導くのを助けてくれているのも事実です。

15歳のヨセフと19歳の姉アレクサンドラが福音に導いた人々の中には、彼らの両親もいます。

というより、両親が子供たちを導いたと言った方がよいかもかもしれません。最初に街で宣教師と出会い、昼食を共にしようと家に連れ帰ったのは、両親だったからです。キリスト教をはじめ、いかなる宗教も抑圧される政府の下で育ったシャモスファルビー家族にとって、福音のメッセージは大変異質なものでした。家族は福音に興味を抱きました。

「宣教師たちのメッセージは真実だと思いました。」ヨセフはそう言います。「ぼくは人生の目的を知りたいと強く思っていたのです。」

「宣教師はわたしたちの知っている若者たちとは違っていました」と言うのはアレクサンドラです。「わたしは彼らが人生に目標を持っていて、確信に満ちていることに強い印象を受けました。聖文が彼らに指針を与えているのです。頼れる人がいるのです。それに比べ、わたしたちの周りの若者の多くは、アルコールで感覚を鈍らせ、人生の目標などまったく持っていません。」

当時両親は忙しくてレッスンを受けられませんでした。ヨセフとアレクサンドラの二人はレッスンを続けました。3回目のレッスンが終わり、何度か教会の集会に出席するころには、二人とも教会が真実であると知り、バプテスマを受けたいと願うようになっていました。

「二人で初めて教会に行ったとき、とても素晴らしい雰囲気を感じました」と、アレクサンドラは言います。「あれは4月でした。太陽の光が窓から差し込んでいました。皆親しみやすく、優しい人ばかりでした。ほかの教会に行ったときには冷やかなものを感じたものです。でもこの教会では御霊が感じられ、ぜひまた来よう、と思いました。」

ヨセフとアレクサンドラがバプテスマを受けるのを許可してほしい、と頼んだとき、両親は子供たちが短期間で強い確信を持つに至ったことに驚きました。けれども両親は、教会が立派な原則と高い道徳を教えていることをよく知っていましたし、そうした原則や道徳は、彼ら自身が家庭で子供たちに教えようとしてきたことでした。両親は子供たちに許可を与えました。こうしてヨセフとアレクサンドラは、支部で13人目と14人目の教会員となったのです。

「バプテスマ会には両親も来てくれました」と、ヨセフは言います。「バプテスマは屋外プールで行われまし

シャモスファルビー家族が宣教師を昼食に招いたとき、まさか自分たち自身が霊の糧を受けようとは想像もしませんでした。今や彼らの顔は、イエス・キリストの福音に従って生活する喜びに輝いています。

た。小鳥のさえずりや虫の声が聞こえていたのを覚えています。御霊がとても強く働き、両親は教会にもっと興味を持つようになりました。翌日、ほくたちは聖餐会で証をするように頼まれました。父は仕事で来れませんが、母は出席してくれました。」

ヨセフとアレクサンドラは、活発で、熱心な教会員になりました。二人ともリコーダーとギターを演奏し、賛

美歌やハンガリー民謡を歌うのが大好きです。やがて支部では、二人の音楽好きがほかの人にも影響を与えていきました。二人の福音を愛する気持ちも同じです。彼らはよく宣教師を助け、求道者のフェローシップには欠かせない存在となっています。両親にはとりわけ心を砕いて福音を伝えました。

「夕食のときは、両親に教会の活動について話しまし



た」と、ヨセフは言います。「よく一緒に教会に来るように誘いましたし、実際、何度も来てくれました。」

シャモスファルビー家の父母がバプテスマを受けるのは時間の問題でした。バプテスマを施したのは、もちろん息子のヨセフです。一度バプテスマを受けると、教会は彼らの生活を大きく変えました。父親のヨセフは日曜日に教会に出席できるように転職しただけでなく、経営していたぶどう園と酒場を売ってしまいました。シャモスファルビー家族は、主が家族に数え切れない機会を与えてくださっていると感じ、輝かしい未来を確信しています。

ヨセフは大学で経済学を勉強する計画を立てています。伝道にも出たいと思っています。伝道が終わったらミシュコルツに戻り、地元で教会を強めたいと願っています。「世の汚れに染まる前の若いときに、福音を見だせてうれしいです」と、彼は語ります。今彼がいちばん好きなのは「わが子よ、忘れずに若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい」という聖句です（アルマ37：35）。

アレクサンドラは地元の大学で経済学を専攻しています。支部では、若い女性の会長の責任を果たしています。英語が幾らかできるので、支部の会員のためにかなりの時間を費やして様々な教会のテキストを翻訳しています。このために長い時間、辞書と首っ引きで取り組まねばなりません。アレクサンドラは喜んでそうしています。彼女に言わせると、英語をマスターするのに役立つのだそうです。

「教会を知る前は、将来に希望など感じていませんでした。成功を目指して努力することも、将来に期待して頑張ることも、無駄だと思っていたんです」と、アレクサンドラは言います。「どちらを向いても戦争ばかりです。そのうち大惨事が起こって、世の終わりがやってくるように思えました。でも、教会の会員になって、そんな悲しみから逃れることができました。」

アレクサンドラは自分にぴったりの聖句を見つけました。今では大好きな聖句になっています。

「そしてその日、主はあなたの悲しみと恐れを取り除き、またあなたが服したつらい苦役を解いて、あなたに安息を与えられる。」（2ニーファイ24：3）

聖文を探求し、福音を深く研究して、アレクサンドラもヨセフも人生に対する疑問に指針と答えを見いだしました。皆さんも聖典を開いて、どんな聖句が飛び出して来るか見てみたくなったのではありませんか。

シャモスファルビー家族が宣教師を昼食に招いたとき、まさか自分たち自身が霊の糧を受けようとは想像もしていませんでした。今や彼らの顔は、イエス・キリストの福音に従って生活する喜びに輝いています。□

かつて、アレクサンドラとヨセフには将来が暗いものと思えた。今では、そうした疑念は消え、聖文や教会の教えから指針と答えを見いだしています。





アレクサンドラとヨセフ。
ハンガリーで福音を聞き、
受け入れたほかの若者たち
と、活動に参加したときの
もの。

背比べ

ロイド・ニューエル

ILLUSTRATED BY GREG NEWBOLD

父は毎年わたしたち子供の誕生日前後に、その子を地下室へ連れて行き、壁に背丈の位置を書き込みました。これは兄たちとわたしにとって特に大切な慣例でした。わたしは背筋を伸ばし、頭を傾ける角度を工夫し、息さえ止めて、できるだけいちばん高く計ってもらえるようにしたものです。父が壁から鉛筆を離したと分かると、わたしはすぐに振り向き、1年でどれくらい伸びたかを見ようとしました。

1年前の印からさほど変わってなくて、兄たちの印には程遠く、がっかりする年もありました。また、とても背が高くなった気がして、階段を上がればプロバスケットボールのスカウトが待っているかしらと思った時期もあります。

しかしいちばん鮮明に覚えているのは、いつも変わらない、むしろ決まり切った父の反応でした。高かろうと低かろうと普通であろうと、父は同じようにほほえんで、わたしの肩に手を回し、「おまえを誇りに思っているよ」と言うのです。

1年前より伸びていたり、兄たちの印を追い越したりしたときは、「どうしてもっと喜んでくれないんだろう」と思いました。逆に、前年の印からさほど変わっていないときは、「どうしてもっとがっかりしないんだろう」と、不思議に思ったものでした。しかし今になってみると、「父は人生の浮き沈みや、子供たちの変わらない価値について知っていたのだ」と思います。

ほかの子と比べてわたしの背が高いか低いかは、父にしてみればどうでもよかったです。父がわたしを愛してくれたのは、わたしが父の息子であり、父がわたしの親だからでした。子供たちの背丈がどれほど伸びたところで、彼らの成長を分け隔てなく誇りに思っていること

を伝えるためだけに、父は毎年わたしたちの背丈を計ったのではない。わたしは時々、そんないぶかしげな気持ちにとらわれます。父は人と比較することの危険性を知っていました。自分の成長を他人と比べると、人より優れていると感じるか、劣っていると感じるかのどちらかの結果になると知っていました。どちらの態度も同じように間違っています。父は、「わたしたちが時間をかけて自分を吟味し、思い巡らし、祈るときに、天父が見てくださるように自分を見ることができる」と、教えたかったのではないのでしょうか。

父は背丈を計ることで子供たちに、肉体的な面だけではなく、天父との霊的なつながりの面で、どのくらい自分たちが成長できたかを吟味するきっかけを与えたかったのではないのでしょうか。子供に背筋を伸ばして立たせることは、父にとって肉体的成長を計る以上の意味があったのです。

毎年地下室の壁の所へ行ったために、わたしは父の愛に気づけたのです。同様に、わたしたちが祈りの気持ちを込めて自分の霊的成長を評価する時間を持つなら、神のわたしたちへの完全な愛を感じられるでしょう。わたしたちは、生涯を通じて霊的に成長していくなら、「愛に満ちた永遠の御父はわたしたちの成長の過程の一つ一つを誇りに思ってくださいている」と確信できるでしょう。天父はわたしたちの価値を御存じであり、その愛は不変で永遠なのです。□





ILLUSTRATED BY TYLER LYBBERT

輝く聖典

リーラ・パートレット・クーンズ

わたしにとって、幼いころのいちばん古い思い出は、5歳のときワードの古い集会所の地下で日曜学校に出席したときのものです。ある日、教師がジョセフ・スミスのお話を読んでくれました。ジョセフが祈り、天父とイエス・キリストが姿を現されて、彼の前に立たれたという話です。そのとき、まぶしい太陽光線の中をほこりの粒子が静かに動くのが見えました。今でも自分がそこに座って、光の柱に囲まれ、ほこりの動きを見ながら話を聞いている姿が思い浮かびます。けれども、とりわけよく覚えているのは、ジョセフ・スミスが天父と会い、話をしたと聞いたときに心にわき上がってき

た、温かい気持ちです。

その日家に帰ると、教師が読んでくれたのとよく似た父親の本を見つけました。そのとき、わたしはそれが聖典の合本だとは知りませんでした。読むことはできませんでしたが、ただ手に取ってページを眺めているだけで、日曜学校で感じた気持ちを再び感じることができました。

成長して初めて聖文を読んだとき、これと同じ温かい気持ちを感じました。それから何年もたちましたが、この気持ちを度々感じてきました。教会や神殿で、また人の話を聞いているときにです。そして何より、聖文を読むときにそれを感じます。□



「リーハイが見た命の木の示現」1987年。スティーブン・ロイド・ニール作。

アメリカ合衆国ユタ州ペンドルトン。板・油彩（243×121センチ）。

世界中の文化と自分の体験を取り入れ、さらには日本での伝道体験も含めて、作者は命の木に対する人間の共通の願いを強調している。

画面には作者の家族や友人が描かれている。リーハイが見た「命の木」の示現のそのほかの描写については、本誌p.34参照。

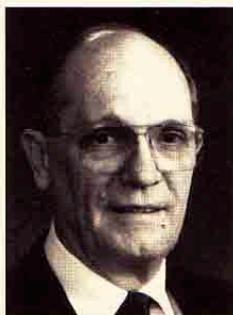


「そして、1本の木が見えたが、
 その実は人を幸せにする好ましいものであった。
 ……そしてその木の実を食べると、
 わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。
 それでわたしは、家族にも食べてほしいと思い始めた。
 その実が、ほかのどんな実よりも
 好ましいことが分かったからである。」（1ニーファイ8:10, 12）
 （本誌「命の木」p.34参照）

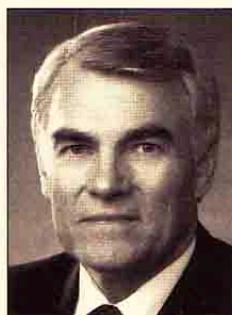


新たに召された 七十人会長会

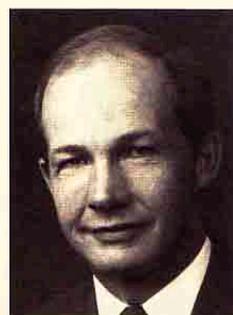
七十人 会長会



L・アルディン・
ポーター長老



ジョー・J・
クリステンセン長老



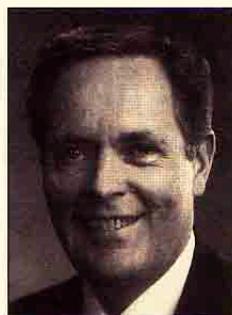
モンティ・J・
ブラフ長老



W・ユージン・
ハンセン長老



ジャック・H・
ゴーズリンド長老



ハロルド・G・
ヒラム長老



アール・C・
ティンギー長老

大 管長会は今週、七十人会長会の先任会長であるカーロス・E・エイシー長老がソルトレーク神殿の神殿長に召されたことを発表した。

エイシー長老の新しい召しに伴い、後任としてL・アルディン・ポーター長老が七十人会長会の先任会長に召される。就任は8月15日からとなる。そして、ポーター長老の召しによって生じた七十人会長会の空席は、七十人第一定員会のアール・C・ティンギー長老が埋めることになる。

ポーター長老（64歳）は1992年8月15日以来、七十人会長会の一員として働いてきた。1987年4月1日に七十人第二定員会会員として中央幹部に召された後、1992年4月6日に七十人第一定員

会会員として支持を受けた。

長老は七十人の召しを受けたとき、ルイジアナ・バトンルージュ伝道部の部長を務めていた。伝道部長に召されたのは1986年7月である。ポーター長老は中央幹部に召された1987年4月以降も3か月間引き続き伝道部長として働いた。伝道部長に召される以前は、アイダホ州メリディアンステーキの祝福師、アイダホ・ボイス神殿の副神殿長、地区代表、ステーキ会長、監督を歴任している。1950年から1952年までは西部中央諸州伝道部で専任宣教師の召しを果たした。

1955年にブリガム・ヤング大学を卒業すると保険業界で活躍し、最終的には財務計画会社の役員を務めた。

ポーター長老は、1931年6月30日ソルトレーク・シティーでJ・ロイド・ポーター、レボン・ハイワード・ポーター夫妻の間に生まれた。1953年2月19日にアイダホ・フォールズ神殿で、シャーリー・パーマーと結婚している。ポーター姉妹はテキサス州ヒューストンの出身である。ポーター長老夫妻には6人の子供がいる。

ティンギー長老(62歳)は1991年1月1日に七十人第一定員会会員に召され、1994年8月15日以来、ユタ州南地域会長会会長として働いている。

長老はこれまで、地区代表、オー

ストラリア・シドニー伝道部の部長、東部諸州伝道部、ユタ州北部伝道部およびユタ・オグデン伝道部で副伝道部長、高等評議員、監督、長老定員会会長、日曜学校教師などを務めてきた。

1961年にユタ大学の法律大学院を卒業すると同時に法学博士号を取得し、さらに1966年、ニューヨーク大学で会社法法学修士号を受けた後、ケネコット・コッパー社の顧問弁護士を務めていた。また、3年間にわたり合衆国陸軍法務部隊で働き、陸軍大尉の称号を与えられている。

また、ボーイスカウト・アメリカ連盟グレート・ソルトレーク評議会議長

も務め、ボーイスカウト・アメリカ連盟のシルバー・ビーバー章を贈られている。

ティンギー長老は1934年6月11日、ユタ州バウンティフルでウィリアム・W・ティンギー、シルビア・カー・ティンギー夫妻の間に生まれた。1960年6月17日、セントジョージ神殿でネバダ州ローガンデール出身のジョアン・ウェルズと結婚し、4人の子供がいる(Church News『チャーチニュース』1996年6月22日付け)。

*

根室支部の歩みと自治体への働きかけ

——市役所を訪問して「家庭の大切さ」の訴え——



釧路地方部
根室支部
小沢裕一

根室支部は、北海道の東端に位置する1市4町を含む支部です。東には北方領土を臨み、北は知床の山々で区切られています。政治的には根室は「国境の町」ではありませんが、現実的に、また民族的に確かに国境の町です。北方領土の島々には、ロシア人しか住んでいないからです。数年前からはピザなしでロシアとの交流も定期的に行われたり、ロシアの漁船員が町で買い物をしている姿を見かけるようになりました。

根室伝道所の開設

さて、根室支部の歴史も、またわたし個人の信仰生活も、それをたどっていくと、その時々々の伝道部長から切り離して考えることができません。

1979年に釧路支部で65歳の高満キン姉妹がバプテスマを受けました。ところが彼女は、すぐに根室に帰らなければならぬ身でしたので、教会のない所でどうやって信仰を保てばよいのだろうかと途方に暮れていました。当時の札幌伝道部を管理していた堀田徹部長に相談したところ、彼は宣教師とともに日本東端のノサップ岬に赴き、森の中でひざまずいて祈ったそうです。ほどなくして、二人の長老が派遣されました。根室伝道所の開設です。

次のデビッド・H・保喜部長の時代には、根室支部から初めて専任宣教師が召されました。それと時を同じくし

て、1983年4月には根室支部が組織され、石井猛雄^{たけお}兄弟が根室支部の初代支部長として召されました。それ以後は12年間もその責任を果たし、今なお副支部長として働いています。

ルーロン・D・マンズ部長のときには、たくさんのバプテスマがあったようで、保存されている当時の資料を見ると、主の業が進みゆく様子が伝わってきて興奮すら覚えます。

しかし、次の土田勝部長の時代には試練がやって来ます。根室の長老パートが閉鎖され、専任宣教師による伝道が打ち切られたのです。そのときの根室支部の会員の心情を正確に思い計ることはできませんが、主の導きによって決断を下された土田部長にとっても恐らく苦しい選択であったことでしょう。

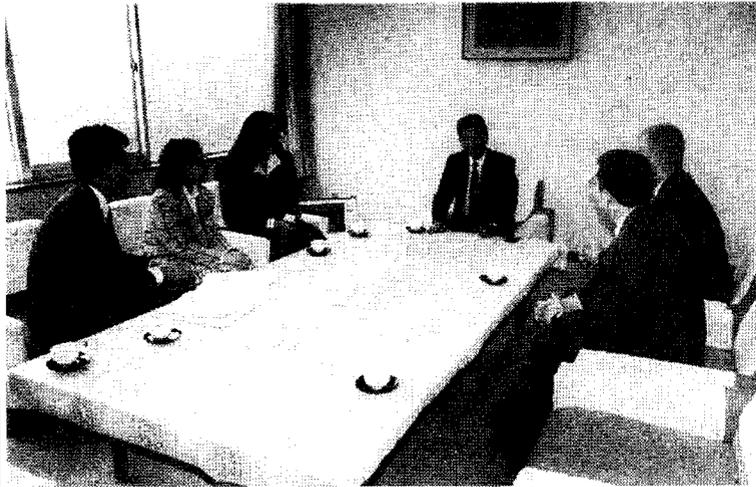
伝道を終えて根室に

くしくもそれから1年後、根室で何の成功も見いだせなかった一人の宣教師が、札幌で根室出身のわたしを見つけたのです。1991年1月、札幌西ステーク^{こくに}琴似ワードで、わたしはバプテスマを受けました。喜びにあふれた新しい生活を始めることができたのです。

【根室新聞】1996年5月20日付け

末日聖徒イエス・キリスト教会支部 平賀市助役と懇談 小沢代表ら5人が

末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）根室支部の小沢祐一代表ら指導者の五人はこのほど、市役所に平賀市助役を訪問、懇談した。小沢代表一行は、同教会の最高指導者であるゴードン・B・ヒンクレー氏が宣言する『家族―世界への宣言』を伝えに平賀助役を訪問した。宣言とは、「社会の最も基



和やかに小沢代表一行と平賀助役との懇談

本的な単位である家族の大切さを強調し、家族の崩壊を防ぎ、家族の絆を強めていこう」というもの。これに対し平賀助役は指導者たちの主張に敬意を示しながら「家族の絆というものは本当に大事なことである。互いの心を繋ぐことができれば家庭での様々な問題は防げるのでは」と話していた。

それから半年が過ぎ、ネッド・L・クリステンセン部長が札幌伝道部を管理するようになり、根室に宣教師を再度派遣して下さるようお願いしたことを覚えています。その願いは思ってもみないときになんげられたのです。

3年後、新しく札幌伝道部に赴任されたばかりのポール・H・ベクストランド部長は、わたしが東京南伝道部から帰還するとほぼ同時に、根室に宣教師を二人派遣しました。ベクストランド部長は、当時第一副管長であったゴードン・B・ヒンクレー長老と会ったときに、ロシア語を勉強するように言われたそうです。ところが召されたのは、札幌伝道部でした。

ベクストランド部長は、終戦50周年を迎えた昨年、北方領土が返還されるという期待の下に根室に出入りするロシア人への伝道を始めました。それと同時に、根室市長を表敬訪問することや市の職員の方々へ働きかけることなどを強調しました。

地元での職探し

わたしは根室市に帰って来た当初、しばらく休養を取ってから、再び札幌

に出るつもりでした。しかし、ベクストランド部長や釧路地方部の河田利夫部長の熱意に打たれ、主の御心は何であるかをうかがうようになりました。田舎の小さな町に暮らすことを決心するのは、いろいろな意味でチャレンジです。しかし、主の御心ならばそれに従うべきだと思っていましたので、地元で仕事を探し始めました。

わたしは、放射線技師（いわゆるレントゲン技師）の資格を持っていましたので就職するには有利でしたが、内定確実と思っていた病院は、経営が思わしくないとの理由で断られてしまいました。こんな結果になるとは思ってもみませんでしたので、とても落胆しました。

それでも主に頼って元気を出し、翌日、職業安定所に向かいました。窓口に行って係員に自分の希望する職を告げると、そのような求人はないとの冷たい返事が返ってきました。それでも係員は、ある病院に電話して聞いてくれました。しばらくして受話器を置いた係員は、わたしに向かってこう言いました。「その病院に一人しかいない技師が、今朝辞表を出したので、ぜひあなたと会ってお話をしたいとのこと

です。」

この経験を人々に話しますと「偶然というにはすごいね」という言葉が返ってきます。確かにそれはすばらしい「偶然」でした。なぜならその「偶然」を起こして下さったのは、神様だからです。「主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されぬ」（1ニーファイ3：7）ということを心から証することができます。

市役所を訪問して懇談

話は変わって、今年のことになりますが、ヒンクレー大管長が来日する際に、橋本龍太郎総理大臣との会見を希望していると聞きました。すぐに「家族―世界への宣言」がわたしの心に浮かんできました。

大管長の来日が近づいたある日のこと、わたしも何かしなければならぬと強く感じました。考えついたのは、市長に「家族―世界への宣言」を手渡すことでした。とても勇気が必要なことでしたが、御霊が「できるよ」とささやきかけてくれたのです。なかなか秘書係長と会うことができず、約束

も取れなかったので、何度も断念しようと思いましたが。わたしのような名も知れない若者が行ったところで、はたして取り合ってくれるだろうかと心配にもなりました。しかし「大管長がなさろうとすることは主の御心なのだから、今わたしのしようとしていることも主の御心になうはずだ」と自分自身を勇気づけました。そして東京南伝道部のグレン・N・ロウ部長が「わたしたち一人一人は弱くて不完全ですが、わたしたちの携えていく福音は完全で真実です」と言って励ましてくれたことを思い出しました。

結局、助役と会見することになりましたが、非常にスムーズに話すことができました。宣教師も一人ずつ証して、その場に御霊をもたらししてくれました。この会見がどのような効果をもたらずかは分かりませんが、「小さな手



根室支部の教会員

段によって大いなること」が成し遂げられるように期待しています（1ニーマイ16：29）。

キリストに頼るために

「〔主のために〕自分の命を失う者は、それを見いだすであろう」（マタイ16：25）と『聖書』にあります。

命を失うとは、あるときには恥を忍ぶことであり、外聞や体裁を気にしないことであり、またあるときは名誉を捨てることでもあるのでしょうか。わたしはその「命」を捨てようとしたときに、やっと「キリストに頼る」ことができたのです。（おざわ・ゆういち 支部長）

東京東ステーキ扶助協会大会で 障害者補助・老人介護の体験学習

——千葉テレビ、産経新聞が取材——

5月11日（土）、東京東ステーキ千葉ワードで、ステーキ扶助協会大会が開催されました。今回は、福祉をテーマに掲げ、講義形式ではなく、実際に体験してもらおうと企画を立てました。

「手を差し伸べる」という表題で、視覚障害者のガイドヘルプ、車いすの取り扱い、80歳のシニア体験、老人介護（清潔、栄養、床擦れの予防）の6つの教室を設け、参加者は自分の興味を持つ分野から3つの教室を選択し、体験学習を行います。講師は、視覚障害を持っている姉妹や看護婦として働いている姉妹たちです。これらの方々

の意気込みもあって、千葉市内の介護用品店から介護用ベッドやエアーマット、車いす、その他の介護用品を借りての本格的な学習となりました。

事前に大会の内容を新聞社やテレビ局にFAX通信したところ、千葉テレビと産経新聞が取材に来てくれました。千葉テレビは当日の夕方のニュースで、大会の様態を教会の建物とともに放映しました。内容が日本の社会的問題と合致していたからだと思えます。

参加者は約80人。大会後のアンケートには以下のような感想が寄せられました。

- 実際に体験してみると、介護される人の気持ちがよく分かる。
- 現在自分の周りには、世話を必要とする人はいませんが、今後対応を迫られたときの状況を考えるきっかけになった。
- 視覚障害者がいかに不安を持つものか、どんな助けが必要かが分かった。
- 入門程度の講習だったので、もっと深く勉強したかった。
- 兄弟たちにも参加してもらい、一緒に学んでほしい。

こうして講習を行ってみると、多くの姉妹が介護に対して興味を持っていることや、機会さえあればさらに学びたいとの意識があることを実感しました。

わたしは現在、訪問看護婦として寝たきりの方々を訪問しています。仕事の中で感じるのは、肉体の老化と死はだれにでも必ず訪れるものであり、自分の思いどおりにはならないということです。介護する方かもしれないし、

『産経新聞』1996年5月12日付け

される方かもしれません。しかし、介護者に知識と技術があれば、家庭の中で家族と平安な気持ちで生活することは可能なのです。現実の問題になってから慌てるのではなく、日ごろから考

え、備えておく必要があると感じています。(レポーター：近藤佳治子、千葉ワード扶助協会会長)

千葉テレビの取材を受ける老人介護の体験学習



老人介護の体験学習
100人が参加
千葉 稲毛区稲毛
東の「末日聖徒イエス・キリスト教会」
で十一日、信徒の成人女性らによるボランティア団体「扶助協会」が企画した



「障害者補助・老人介護の体験学習」が行われた。この催しは、近づく高齢を乗り越えたり、手足の関節を固定して歩行したりする方法を学習しようという「老いの体験」を身近に

「障害者補助・老人介護の体験学習」が行われた。実際に車いすに乗って段差を乗り越えたり、手足の関節を固定して歩行したりする方法を学習しようという「老いの体験」を身近にしていた。写真。扶助協会の井上禮子さんは「介護や障害者補助について、もっと一般の人々にも意識をもってもらいたい」と話していた。

ミュージカル「大草原の小さな家」 主役のローラ役で全国公演

—— 神殿での祝福を得て舞台に ——

横浜ステーキ小杉支部
山下菜々子 (中学2年)

昨年の夏、ミュージカル「大草原の小さな家」というお芝居に出ました。そのお話はとても福音的でした。そして神様の深い愛、また家族のきずなを強く感じさせるものでした。でも、わたしは公演を前にして体育祭で応援団を務め、のどを痛めてしまったのです。行きつけの耳鼻科で診てもらったところ、声帯にポリープ状の突起物ができて真っ赤にはれ上がっているとのことでした。

その日からマスクをかけ、しゃべる

ことのできない日が続きました。毎日、気持ち悪くなるようなせんじ薬を飲みました。それでも思うように治りません。歌の練習も「のどが治るまでは無理ね」と言われ、ほとんどできませんでした。食べたいものも「のどによくないから」と食べられません。

「こんな体で舞台に立つなんてとんでもない」

紹介された別の病院に行きました。役者さんを多く診ている声の専門医です。でも「こんな体で舞台に立つなんてとんでもない。すぐに役を降ろしてもらいなさい」と言われて、何もして

もらえずに帰されただけでした。本番がもうすぐだというのに、まだ声が出ません。とうとう演出家の先生方も心配されるようになりました。

のどに直接注射を打つ特別な治療をしているというお医者さんを紹介されました。怖い気持ちを抑えて何とか治したい一心でその病院を訪ねました。でもやはり同じことでした。「相当ひどい。これではとても初日は開けられない。1か月公演なんてとんでもない。」そう言われ、のどに2本の注射と、腕に30分の点滴をしてもらって帰りました。

ところが、その日、ヘアメイクを担当している方のお宅で、打ってもらった注射がとても強い薬で、まだ若くて体の出来上がっていないわたしなんか毎日打ち続けると、将来悪影響があることを知らされたのです。もしこの話を聞いていなければ、わたしは毎日、この注射を打ってもらっていたことでしょう。母と「導きだったんだねえ」と神様に感謝しながら帰りました。

「静かな静かな声なのに体が震えました」

そんなことがあった後、わたしは神

殿に行き、死者のための身代わりのパ

ラスマを受け、菊地良彦神殿長に祝

福をしていただきました。そのときの

神殿長の声は、静かな静かな声なのに

体が震えました。帰りながら感じたこ

とがありました。それは「わたしの信

仰が足りない」その一言でした。そう

思ったら涙があふれてきました。そん

なわたしに父は「大丈夫。心配しなく

てもきつと大丈夫だよ」と包み込むよ

うな温かい言葉をかけてくれました。

それが公演3日前のことでした。毎

日来るように言われた注射の治療をお

断りするのには母はテレホンカードを

1枚使い切ってしまったというこ

と。最後に先生の言われた言葉は

「あれで声なんか出るはずがない。舞

台が失敗するのを覚悟で出るんです

か。歌えなくともいいんですね」でし

た。それでも気持ち悪くは変わりません

でした。病院に行く前の不安な気持ち

は一切なく、「大丈夫。絶対大丈夫」と

不思議なくらい確信がありました。

そして……やっばり出たんです。声
が……。思いつきり歌うことができた
んです。心の底から思いました。「神
様の助け以外の何ものでもない」と。
公演の最後まで、のどは持ちこたえら
れました。お医者さんから「絶対声が
出ることはない、役を降りてもらい
なさい」と言われたのに……。でもそ
んな声でも、聞いて少しでも感動して
くれた人たちがいました。とても胸が
いっぱいになります。

けいこに出て行くわたしと母を見送
る弟たちのさみしそうな目、わたしが
舞台に出ること家族にかけた負担の
重さ……。今まで支えてくれた家族に
感謝しています。そして……神様あり
かとう。(やました・ななこ)

苦悩の淵からの脱出 ——劇団との出会いに活路

っと異なっているというだけで、小学
校入学以来延々と続く排除行為に、ど

れほど心を痛めたかしれません。

親の願いどおり、いえその数倍も心

優しく、感性豊かに育ってこれている

娘が、そのことに自信が持てず、むし

ろそんな自分を嘆き、悲しみ、憐れ

ていくさまを見ているのは親として身

を引きれかたれるほどのもの

でした。

「このままでは、この子の最も尊い

部分こそぎ取られてしまう。何とかし

てこの子に安心して自分を表現でき

る場を与えてやりたい。」そう願わずに

はいられませんでした。そうして見

だしたのが「児童劇団」でした。しか

しそれも一時は、夫の「もし入団でき

たとしても、レッスン日が安息日だっ

たら通わせられないよ」の一言であ

き

横浜ヌテーク小杉支部
山下典子

昨年、娘の葉々子がミュージカル

「大草原の小さな家」の主役で

あるロー役に抜きされ、全国公演

いたしました。劇団入団5か月のま

ったく素人同様の娘が、いきなり大役

をお任せつかり、とても信じられない

出来事でした。

他人と異なることに 自信の持てなかつた娘

思えば娘を「児童劇団」という我々
の生活からおよそかけ離れた世界に送
り出すことになったのは、折り返し
ては考えられない苦悩の淵からの脱出
のようなものでした。物の感じ方やと
らえ方、表現の仕方がほかの人とちよ



ミュージカル「大草原の小さな家」の主役であるロー役に抜きされ、全国公演した山下葉々子姉妹(左から二人目)

らめざるを得ない状況にありました。

劇団の活動と安息日の選択

「安息日に家族で教会に集う。これだけは家長として譲れないよ。」いづくもなくキッパリとした夫の口調に何も言い返すことのできなかつたわたしは、その夜一晩大きな衝撃を胸に眠ることができませんでした。今、何が大切なのか、何を選ぶべきなのか、子どもたちに与うべきは何なのか、教うべきは何なのか、自分が重要な決断を迫られ岐路に立たされていることを実感し、ありったけの知恵と力を振り絞って考えました。菜々子の跳びはねて喜んでいる姿が目には焼きついて離れませんでした。そして一つの結論に達したのです。「神権者であり、家長である夫の勧めに従おう。求むべきは、まず神の王国と神の義なのだ」と。

起き出してすぐに、劇団あてに手紙を書きました。「わたしたちは来日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。日曜日は特別な聖日です。かりに入団できたとしてもレッスン日が日曜日でしたら通うことができませんので、まことに勝手ながら、今回のオーディション、ご辞退申し上げます。」朝日がさし込む時刻になっていました。とても安らいだ気持ちでした。菜々子の才能や可能性は、きつと神様が守ってくださるという思ってもみなかった証まで頂くことができました。

速達を受け取ってすぐの劇団からの電話は、とても好意的なものでした。「再審査させていただきます。もし不合格になるとしたら、日曜日の件だけだと思えますが、それでもよろしいでしょうか」との最終確認でした。レッスンは、やはり日曜日とのことでした。

それから待つこと1週間、届いた知らせは、特別に土曜日、中高生に混じってただ一人の小学生としての入団の合格通知でした。選択は間違っていない

かつたのです。すべてを捨てて主に仕える決心をしたとき、すべてに勝る大きな恵みを頂くことになったのです。

この出来事が、今に通ずるすべての始まりだったと思っています。「主の戒めを第一のこととして生活するかぎり、わたしたち家族は守られる」との確かな証を得ることができたのです。

福音に取って代わる幸福はない

くしくもあの夜、夫はこうも言ったのです。「たとえ、菜々子にどんな才能や力があるとしても、主の福音に取って代わるものではないからね」と。たとえどんなに才能が豊かでも、どんな財を築いても、それがために主の福音からそれて生活することになれば、何ら幸福はもたらされないのです。ともすれば子供のためと世の風潮に流されそうになる母親のわたしにとって、まさに目からうろこが落ちる一言でした。決して世の名声や富におぼれまいと決意を新たにさせられた一件でした。

そうして与えられた「大草原の小さな家」の舞台。応募したときから「入団5か月目でミュージカルのオーディションに受かることは、まずありませんから」と言われていたにもかかわらず、「御心ならば、この子を器として使っていただける」と、不思議な平安がありました。そして、それは「この子は受かる」との確信に満ちた思いに変わっていったのです。

故郷、宮崎での公演がスケジュールに入っているのを目にしたとき、今にも心臓が飛び出しそうに鼓動が高鳴りました。審査では、水を得た魚のごとく動き回る娘の姿に、ただただ圧倒され、涙が流れて止まりませんでした。

それから2日後「ローラ役に決定です」と知らせを受けました。台本を手にして物語の内容を知ってからというもの、ますます主の恵みに感謝の思いが強くなったのです。そこにあるのは、信仰と愛によって固く結ばれた家族の

姿でした。何度もテレビで親しみ、本を買っては生涯の友として大切にしていた「大草原の小さな家」のインガルス一家そのものでした。「これが舞台になる。全国の人に見てもらえる。」そう思っただけで体中が熱くなる思いがしました。「これは福音そのものだ。福音を伝えられる」と……。

神様は、福音の中で生まれ育った菜菜子に演じさせる道を開いてくださいました。それも九州、宮崎公演のあるこの年に……。後ずさりしたいような畏れ多さと、プレッシャーを感じていました。心から謙遜にさせられ、ひざまずき祈る毎日でした。

不安と恐れの中で

そんなわたしたちでしたが、けいこが始まってからというもの「やはり無理だったか。降ろしてもらおうか」と思ったことは一度や二度ではありませんでした。のどをつぶしてしまった菜菜子は、歌げいこだというのに声が出せないのです。そのために本げいこの間中、ずっと音取りができないままなのです。不安と焦り、恐れ、苦しい毎日でした。疲れも相当なものでした。

よろけるようにして登校し、早退してけいこに向かう毎日。帰りの電車では座ると同時に寝入ってしまい、あるときなど乗り過ぎて終点まで行ってしまい、それでも気づかずに折り返し運転のその乗り越した電車に戻って来たことがありました。ふらふらと今にも倒れそうに改札口に入っていく後ろ姿に涙が止まらなかったこともありました。

「主よ、どうぞあの子をお守りください」と祈らずにはおられませんでした。1日たりとも、いえ、いつかたりとも祈りなくして過ごすことはできなかったのです。訪れた病院も3軒になりました。まさしく親子して身も細る思いでした。でも、それすらも神様の厚いお恵みによってくぐり抜けるこ

とができたのです。願いはただ一つだけでした。「菜々子の演技を通して、神様の愛をお伝えしたい。」御霊とともにあるようにひたすら祈り続けました。

癒しの奇跡

日本でただ一人と言われる名医から「声が出るはずがない。とても舞台を務められるはずがない」と言われた菜々子。体育祭で応援団を務め、のどを痛めたのです。それにもかかわらず、その2日後に周りの役者さんたちを「ウン！ すごい！」と、うならせるほど見事な舞台を務められようとはだれが想像できたでしょう。千秋楽まで47日間17公演という長丁場を一度も穴を開けずに勤めることができようとは……。

主のみがなせる癒しの奇跡以外の何ものでもありませんでした。成功も、人々からの賛辞も、すべてそっくりそのまま主にお返ししたいわたしたちでした。なぜなら、主の助けがあればこそできたことで、どんなに努力しても、主の恵みなくしては到底かなうことではなかったことをだれよりも知っているわたしたちでしたから。

今も、あの「大草原の小さな家」の舞台がはっきりと目に焼きついてます。会場にあふれんばかりに降り注がれた主の御霊に感動し、涙を流してくださった多くの方々の姿が忘れられません。同じ教会員というだけで、忙しい中、時間を割いてくださった多くの方々に心から感謝をしています。

まず神の国と神の義とを

菜々子は物心ついたころから特別な感性を感じさせる子でした。わたしたちはそれを見て「すてきに育ててほし

いね。いつか神様のお役に立てる才能に育ててほしいね」と話し合ったものでした。神様から頂いたものを、神様にお返りする、これに勝る喜びを知りません。今、改めて、身の引き締まる思いで今後の子育ての課題を見詰め直しています。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)これが結婚してこの方、6人の子供を授かったわたしたち夫婦の今も変わらぬモットーです。(やました・のりこ 初等協会教師)



山下ご家族



ウェイン・R・ハーレン長老ご夫妻

47年前の伝道地に再び

「彼らがなおも主にあって兄弟であったので、その喜びはいっそう深かった」(アルマ17:2)

東京北伝道部夫婦宣教師
ウェイン・R・ハーレン

わたしたち夫婦は、東京北伝道部の最初の夫婦宣教師です。1995年11月から1年半の間伝道するように召されました。熊沢幸雄部長(6月に解任。現在はラリー・O・ハズラム部長)より、本部で働くように割り当て

を受け、妻が記録書記を、わたしが会計書記を務めています。選ばれた永遠の伴侶とともに、夫婦宣教師としてこの地で働けることを主からの祝福と感じています。

わたしは1949年7月から1952年の7月まで、伝道部が再開されて間もない時期に日本で伝道しました。当時はワードも支部も、教会堂も神殿もない時代

でした。やがて、東京第一支部と第二支部が設立されました。それは、初めて地元の指導者によって組織された支部です。このとき、わたしが東京地方部の部長として働き、高木富五郎兄弟が第一支部の支部長に、奈良富士哉兄弟が第二支部の支部長に召されました。

初期の宣教師たちは、1908年に戦前の伝道部でアルマ・O・テラーの翻訳した『モルモン書』を使って働きました。教会に関するパンフレットは1冊しかなく、賛美歌集には30曲しか収録されていませんでした。『教義と聖約』も『高価な真珠』もありませんでした。しかし宣教師たちは自分たちの務めを愛し、伝道部が成長するにつれいっそう聖徒たちを愛するようになりました。また、会員たちも神権組織や補助組織での責任をどう果たし、どのように指導していくかを学んでいきました。

わたしたち夫婦は、現在の日本の教会の成長ぶりや強さに驚いています。47年前、宣教師は教会の指導者でもありましたが、今日宣教師は、会員や指導者に仕える僕として、また助け手として、主の声に聞き従うすべての人々に福音を広めています。

日本に戻って来る前、わたしはブリガム・ヤング大学で31年間教育心理学の教授として働き、昨年9月に退職したときは学部長補佐を務めていました。これまで、副監督(2度)、ステーキ伝道部長、監督、ステーキ高等評議員、プロボ宣教師訓練センターの支部長などの責任を果たしてきました。

妻、ジョアン・ハーレン姉妹は初等協会教師、同会長、ステーキ初等協会会長、若い女性副会長、扶助協会副会長などの責任を果たしてきました。彼女は、小学校教諭の資格を持っていますが、これまで母親として、主婦として家庭で過ごしてきました。またわたしたちは、4人の息子と1人の娘に恵ま

れています。子供たちは皆、神殿で結婚しています。4人とも伝道の召しを果たし、1人は韓国に、1人は日本福岡伝道部に、あとの2人は南米に召されました。

わたしたち家族にとって、イエス・キリストの福音はいつも生活の中心でした。日本に戻って得られた大きな喜びの一つは、懐かしい教会員に再び会えたことです。1949年にわたしがバプテスマを施した今井一男兄弟、夫婦で神殿宣教師でもあった横浜の柳田藤吉・聡子夫妻、以前わたしが日本にい

たとき、東京で結婚した長野の木村十左・かね子夫妻、東京第一支部が設立されたころの会員で、当時はまだ幼かった北恒子姉妹(現在の福田姉妹)などです。

これらのすばらしい聖徒たちは、現在でも教会をこよなく愛していらっしゃいます。彼らを見てみると、アルマがモーサヤの息子たちと長い歳月を隔てて再会し、互いに主の業を行い、主の戒めを守り続けてきたことを知ったときの喜びを思い起こすことができます(アルマ17:1-2参照)。□

清算をしなければならぬ日

——経済的困窮の中で知る主の贖いの力——

苦難は姿を変えた祝福

わたしたちは、かなり厳しい状況に追い込まれましたが、「苦難というのは姿を変えた祝福」だと言われるように、この苦境の中からたくさんの祝福を受けることができました。まず、いろいろな無駄を省き、質素儉約をすることを学びました。どんなことでも主に感謝することを学びました。ますます主に頼り、主に従うようになりました。毎月毎月綱渡りの状態が続きましたが、主はいつも不思議な方法で、わたしたちに良い知恵と導きを与えてくださり、何とか会社を半年以上も持ちこたえさせることができました。

しかし、とうとう来るべきものがやって来たのです。自分たちにできることも底をつき、もうなすすべがありません。このまま物件が売れなかつたら、わたしたちは多額の負債を抱え、倒産することになります。工務店への支払いもできなくなり、その方々の家族が生活に困ってしまいます。信用もなくなります。子供たちの学業はどうなるのでしょうか? 神殿の奉仕も今までの



町田ステーク
藤沢ワード
小形利枝子

わたしと主人は、定休日である毎週水曜日に神殿で奉仕をさせていただいています。週1回の奉仕ではありますが、それはわたしたちにとって喜びの日になっています。奉仕の機会を与えてくださる主に心から感謝しています。

主人は不動産の仕事をしています。土地を購入し、そこに家を建ててお客さんに売るといった建売業を営んでいて、わたしも手伝っています。わたしたち家族は、この仕事によって今までたくさんの恵みを神様から頂いてきました。ところが、世の中が不景気になり、それに追い打ちをかけるように、昨年1月に阪神大震災が起こってからというもの、家がまったく売れませんでした。

ようにはできなくなります。

信仰の試し

不安で不安でたまりません。それでも、もしもそうなることが主の御心なら仕方がないと思いました。今までたくさんのもを与えていただいたのだから、今度は主が取り上げられる番かもしれないと覚悟を決めたものの、どうしてもこれだけは避けたいという問題が二つありました。一つは神殿の奉仕が今までどおりできなくなることです。借金の返済と生活のために、恐らくほかの仕事を見つけ、休みなしに働かざるを得なくなるからです。わたしは心の底から「主よ、どうぞわたしたちから神殿の奉仕の機会を取り上げないでください」と切に祈りました。

二つ目の問題は、工務店や取引先への支払いができなくなることです。自分たちのせいで人に大きな迷惑をかけ、不幸にするなんて考えただけでも胸が張り裂けそうでした。

わたしと主人は何度も断食と祈りを続け、心の底から主にすがりました。子供たちも自分から進んで断食をすると言ってきて、家族みんなで心を合わせて祈りました。全身全霊を傾けて祈ったとき、「きっと大丈夫。主が売ってください。必要な時期に、その土地と家を必要としている人を主が必ず見つけてくださる」という確信を得ました。しかしながら、あらゆる手を尽くしてみましたが、家はなかなか売れません。信仰の試しはしばらく続きました。毎日つらい日々が続く、不安と心労で心が暗くなりがちでした。支払い日は迫ってきます。もう自分たちの力ではどうすることもできません。

苦境から学ぶもの

ちょうどそのときでした。わたしはLDS文庫1の『救い主イエス・キリスト』という本の中から、ボイド・K・パッカー長老の「仲保者」という

説教を読む機会に恵まれました。そこにはこう書かれています。

「あなたはこれまで経済的にひどく困った経験がおありだろうか。また思わぬ出費を迫られたり、借金の返済期限が来て、金策がつかずに困ってしまったというような経験をしたことはないだろうか。

このような経験は愉快なものではないが永遠の計画の中では非常に有益なものとなり得る。もしこれまでそうした経験から何も学んでいなければ、道に迷ったり、試験に失敗したときのように分かるまで努力しなければならぬ。そうして初めて霊的な成長を遂げることができるのである。」

その言葉を読んだとき、わたしは何か大きなもので頭を思いっきり殴られたような衝撃を受けました。思わず、これだ！ これだ！ と心の中で叫びました。神様の御心はここにあったのか……。神様はわたしたちにいちばん大切なことを学んでほしかったのですね。

パッカー長老は続けておっしゃっています。「わたしたちは皆一種の霊の負債を負って生きている。いつか勘定が打ち切れ、清算をしなければならぬ日がやって来るだろう。今は気に留めなくともそれで良いかもしれないが、やがて決算日が来て抵当権の行使を迫られる。そのとき、わたしたちは助けしてくれる人を泣きながら捜さなければならないのである。」

主の贖いに感謝

まったくそのとおりだと思います。支払日が迫ってきて、自分ではあらゆる手を尽くしても支払うことができないと分かったときの苦しさ、無念さ、それは何とも言えないつらいものでした。わたしは霊の決算日もそのようであると知ったとき、わたしたちのすべての罪の負債を肩代わりして支払ってください主イエス・キリストの贖いの

偉大さに驚嘆いたしました。

わたしたちを救ってくださる方は、主イエス・キリスト以外にはいらっしゃいません。主の贖いがなければ、だれ一人として救われないのです。わたしは、そのとき頭だけでなく、心ではっきりとそのことが理解できたのです。主の偉大な愛に触れて感謝の気持ちが胸に満ち、涙が止まりませんでした。そして主の贖いを決して無駄にははいけないと思えました。

あふれんばかりの恵み

その後、あたかもわたしたちのこのような学びを待っていたらっしゃったかのように、主は祈りの答えどおりに、ほんとうに天の窓を開いてくださいました。主人がある社宅のポストにちらしを配った方がよいという気持ちになり、そうしたところ、その日のうちに一人の方から物件を見たいという電話があり、とんとんと話がまとまりました。また同じころ断られ続けていた銀行からも融資の話がありました。

そのように主の恵みにより、その後会社の経営はよい方向に向かい、わたしたちは苦境を乗り越えることができました。主は再びわたしたち家族にあふれんばかりの恵みを与えてくださっています。神殿の奉仕も今までどおり水曜日に続けられるようになりました。主の愛と恵みに心から感謝しております。

現在霊界において多くの霊の方々が主の贖いのことを知ってとても喜んでおられ、神殿の儀式を受けたいと切に願い、長いことずっと待っていたらっしゃいます。神殿で奉仕するとき、わたしはそのことをいつも強く感じます。その方々のために心を尽くして働きたいと思っています。主は確かに生きていらっしゃる、わたしたちの贖い主、救い主であられることを心より証いたします。(おがた・りえこ ステーク扶助協会会長)

新教会堂の完成を喜ぶ

「見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」(詩篇133:1)

桜の開花が待たれる3月の半ば過ぎ、わたしたち岡山西ワードの地に新しい教会堂が与えられました。

白く美しい建物に初めて足を踏み入れたときの言い表せない喜びと感謝の気持ちは、教会員の笑顔と行いとなって表されました。新しい教会堂に集う教会員の顔は春の陽光のように明るく、教会のホールや幾つもの部屋は、主への賛美の歌や笑い声で満ちあふれました。

オープンハウスをするに当たって、教会員は宣教師とともに教会の近所の人々に教会や活動、福音について紹介して回りました。すべての組織がそれぞれ才能を生かした展示を準備し、最終日には若者たちが「セージの歌」を公演しました。それらによって多くの人々を教会に招くことができ、主の愛や福音を分かち合うことができました。

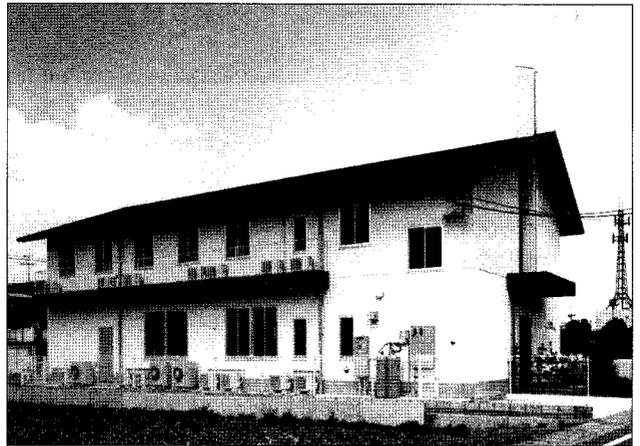
た。また、5月には新しい教会堂で最初のバプテスマ会が開かれました。

わたしたちは、天父から美しい教会堂という贈り物だけではなく、教会員同士のよりいっそう強いきずなと愛という何よりもすばらしい贈り物をいただきました。

今回のオープンハウスを含め、いつもわたしは教会員から多くのことを学んでいます。教会員のすばらしい模範があることに感謝しています。わたしたち教会員のために働いてくださっている監督会をはじめ指導者の方々、教会堂を熱心に掃除している教会

員、「セージの歌」の練習に励み、また伝道に向けて日々準備をしている若い教会員、最近では8月のカンファレンスの準備のために時間を作って集まっている独身会員の仲間、わたしの周りは奉仕と犠牲の模範であふれています。

教会堂を中心にシオンが築かれ、それぞれの家庭がシオンとなるよう頑張ろうと思います。「見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」(詩篇133:1)
(レポーター：なつかわなおひろ立川尚寛、岡山ステーク岡山西ワード長老定員会会長)



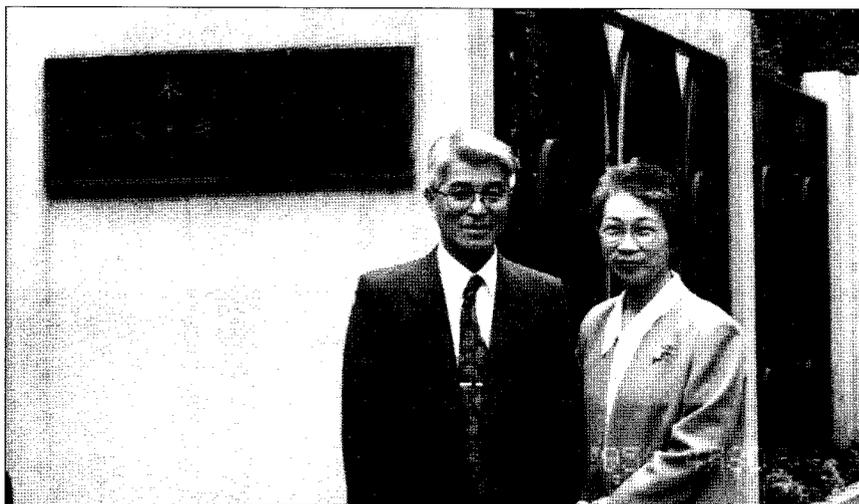
岡山西ワードの教会員

岡山ステーク 岡山西ワード

所在地 〒700 岡山県岡山市
野田5丁目14-11
電話 086-245-3990
竣工日 1996年3月16日
敷地面積 605.43㎡
建築面積 177.67㎡
延床面積 352.80㎡



神殿を離れて 神殿のすばらしさを知る



仙台ステーキ長町ワード
元東京神殿宣教師
沼田文雄

今年3月末、わたしたち夫婦は1年3か月の神殿宣教師の召しを終えて家に帰りました。帰ったのは4月半ばでしたから、庭のつつじやばらなどがそろそろ咲きかけていて、自分の家ほど落ち着ける所はないと思っていました。

しかし、以前の生活に戻るにつれて、今まで身近におられた主が次第に遠くなるように感じ、とても寂しい思いをするようになりました。わたしたちは、神殿を離れて神殿のすばらしさを知るようになりました。

当時を振り返ると神殿が懐かしく思い出されます。荘重な礼拝堂の祈り会は、わたしたちが最も靈的になれる場所でした。

トレーナーとしての導き

初めての神殿宣教師の召しは、すべて学ぶこと、教えられることばかりで

した。それでも幸い順調に儀式を覚えることができました。そのような中で、全国から召された限定儀式執行者の皆さんのトレーナーとして働く機会が与えられました。覚えていただく方法を考えていると、次々に良い方法がひらめいて導かれ、主の御霊を感じて大変祝福された気持ちになったものです。訓練を受け、儀式を覚えて帰られた神殿奉仕者の方々は、次に参入するときにはかなり熟練して、ワードやステーキの人々に教えるようになってきます。これにはほんとうに驚かされました。こうして、奉仕者の皆さんが神殿の儀式を理解できるようになり、地方からの参入も盛んになってきました。

菊地良彦神殿長は次のように言っておられます。「天父の神聖な聖約を忠実に、謙遜に守るものには、天父の恩恵により主の祝福、誉れ、栄光、そして不死不滅と永遠の命が与えられるのです。このような恵みが与えられるように、心と、勢力と、思いと、力を尽くして神殿での礼拝を熱心に行いましょう。」

わたしたちは神殿に参入し、死者の身代わりとなって儀式を受けることにより、主と交わした聖約を果たすことができます。また、神殿で学ぶことや教えられることがあります。それは様々な試しから学ぶこともあれば、御霊によって教えを受けることもあるのです。その多くは儀式に関連していません。永遠の命に至る聖なる神殿の儀式を通して、神の教えを完全に理解できる道が備えられています。

「安らかな聖き力を 感ぜしめたまえ」

デビッド・O・マッケイ大管長の次のようなお祈りがあります。「それゆえ、この聖なる神殿に入らんとするすべての者が、汚れなき手と清き心にて来り、この宮が慰めと靈感と祝福をもたらす汝の聖き御霊の宿る所となしたまえ。何人にも暗き将来、悲しき心を持ちて入り来る者あらば、彼らの重荷を軽くし、信仰を強めたまえ。心にねたみや苦き思いを持つ者あらば、その思いを自己の反省と赦しに置き換えたまえ。この聖なる建物に入り来るすべての者に、安らかな聖き力を感ぜしめたまえ。かくして、おお、主よ、この敷地に足を踏み入る者、かなたより神殿を眺むる者が、汚れた世の俗事からその目を転じ、汝と汝の御心を仰ぎ見るようになしたまえ。」(『日の栄えの結婚』p.59)

神殿宣教師は靈性が高められる大切な奉仕の機会でしたが、召しを果たしてたくさん祝福を受けることができました。わたしたち夫婦を根気よく、優しく、温かく見守り、ご指導して下さった神殿長会の方々、ともに奉仕して下さった宣教師や奉仕者の兄弟姉妹、参入される度に励ましてくださった全国の兄弟姉妹に心からの敬意を込めて感謝申し上げます。(ぬまた・ふみお 日曜学校教師)

いつも主に見守られている幸せ

仙台アステーク長町ロード
元東京神殿宣教師
沼田キン

わたしたちは、1992年10月18日にバプテスマを受けて、1年後に結び固めの儀式を受けることができ

ました。改宗して2年2か月が過ぎたとき、

突然、菊地良彦神殿長からお電話があり、神殿宣教師の召しのお話をうかが

い驚きました。信仰の道をスタートしたばかりのわたしたちに思いがけない

大きな祝福でした。娘が病気をした後

に神殿で奉仕しているとき、わたしもいつか親子で元気に奉仕がで

きたらと心の中でいつも主に祈っていた

ましたが、こんなに早く希望をかえ

てくださるとは思ってもみませんでした。家のことなど問題もありましたが、

すべてを主にゆだねて上京し、1995年1月3日から神殿宣教師として奉仕させ

ていただきました。

以前に3度ほど神殿に参入したことが

あります。わたしたちにとって、神殿は未知の世界でしたが、いつも主に

見守られている幸せを感じました。先輩から教えを受け、模範に倣って儀式

に参加することができました。奉仕に

は喜びがあります。主の業に携わる者として、いつも聖くありたいと念じな

がら、参入される方のお手伝いをし、お互いに御霊を受け、喜びを分かち合

えたときには、何にも代えられない幸せで胸がいっぱいになります。

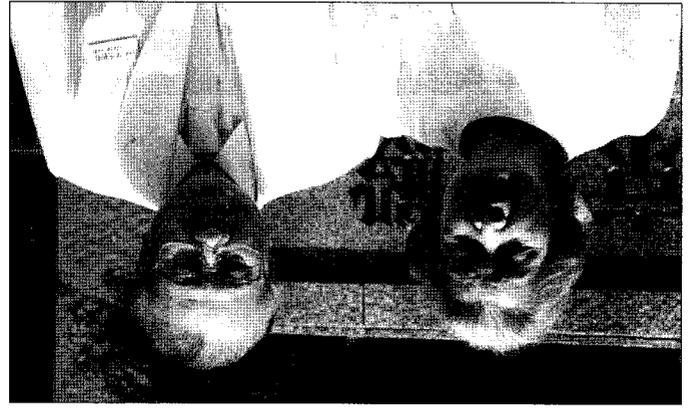
主は神殿に参入するすべての人々を祝福してください。神殿奉仕の業

がこんなにもすばらしいことを改めて知ることができました。

「神は人を通してわたしたちの必要にこたえられる」

「率先して人に奉仕することは、永続する幸福を得る鍵です。キンボール

はわたしたちを心にかけ、わたしたち



東京神殿宣教師
吉沢敏郎、ミドリ

神様の愛と奥義を かいま見ることのできる祝福

東京神殿に神殿宣教師として召さ

れて、わたしたちが強く心に思

うことは、毎日神殿に参入できて幸せ

だな、ということ。考えてみます

と、東京神殿が建つまで日本から最も

近いハイク神殿に日本の聖徒が訪問す

るために、どれほど多くの犠牲が払わ

れたことでしょうか。それゆえ、1975年

8月に東京で地域総大会がアペンサ

・W・キンボール大管長、マリオ・G・ロムニー副管長、十二使徒委員会

会長のエヌ・タフト・ペンソング

老、十二使徒定員委員会のコーン

・B・レンクレー長老、そのほか多くの

中央幹部の方々の出席の下に開かれ、

東京に神殿が建設される計画が発表さ

れたとき、皆は安息日にもかかわらず

見守っている。しかし普通

の場合、神は人を通してわたしたちの

必要にこたえられる。』【聖徒の道】

1996年7月号、p.31

主は、わたしたちが成長できるように

信仰を試されるときもありますが、

主を信頼し、謙虚に従い、御心を行え

るよう御霊の導きを求めるなら、きつ

と祝福されると信じています。

1年3か月の神殿奉仕を通して、主

から数え切れないほどの恵みと祝福を

受けました。皆さんからも励ましと愛

を示していただき心から感謝しており

ます。

先日帰還後3か月ぶりに神殿に参入

することができました。わたしたちを

改宗に導いてくださった姉妹宣教師の

方の結婚式に参加する機会に恵まれ、

神殿の中で言葉に言い尽くせない平安

がありました。主が、わたしたちを

「わたしのとに來なさい」(3ニーフ

7:12:24)と迎えてくださるよう

な喜びに満たされました。神殿はすば

らしい主の聖き宮であることを証しま

す。(ぬまた・きん)

大きな拍手をもって喜びを表しました。

1980年10月に東京神殿が奉獻されてから、ハワイ訪問よりは簡単なはずですが、東京から遠く離れた地に住むわたしたちにとっては、年に2回ほど計画される団体参入に参加するのが関の山でした。それが毎日参入ができるのです。

現在わたしたち神殿宣教師は、東京近辺の多くの奉仕者、また地方から団体や個人で参入される奉仕者とともに儀式に携わっております。中には週1回の奉仕だけでなく、ほとんど毎日のように神殿に参入される方、早朝の6

時、8時にセッションがあるとき必ずおいでになる姉妹、毎日参入される兄弟、また毎月個人的に遠くからおいでになる奉仕の方などもいらっしゃって、わたしたちはそれらの熱心で信仰深い方々のお姿に励まされ、支えられて日々を過ごしています。

次にうれしいことは、全国規模で多くの知人、懐かしい方々にお会いできることです。神殿にいるためにその恩恵にあずかることができます。次は福千年に、神様のもとで手を取り合ってお会いしたいものです。

最後にいちばん大切なことは、神様の愛と奥義をかいま見ることができる

ことです。団体参入で来ていたときは、セッションを受けるだけで精いっぱいでしたけど、結び固め、洗いなどの儀式に携わることによって、神様の御心、愛、祝福を深く知ることができます。初めのころは儀式の言葉を覚えるのが大変でしたが、今では深く味わって行うとき、その言葉の意味の深さに御心を知ることができます。わたしたちが忠実であるならば神様は限りない祝福を約束してくださっています。初めて自分の儀式を受けられた方が、儀式の後、涙で頬をぬらしておられる姿を見たとき、宣教師としてともに最高の喜びを感じました。

神殿宣教師 の紹介

- ①氏名
- ②任命日
- ③出身ユニット



①上野道男, きみ
②1996年6月
③仙台S / 泉W



①小野哲夫, 洋子
②1996年5月
③東京西S / 多摩W



①北山 明, 春子
②1996年7月
③札幌西S / 新琴似W



①倉見光男, あや
②1996年5月
③札幌S / 豊平W

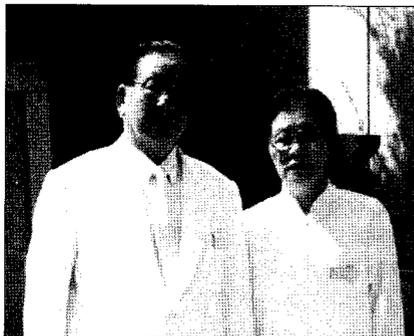


①竹内 保, しげる
②1996年4月
③神戸M / 福知山D / 西脇B

神様はすべての人が、福音を知らずに亡くなった多くの先祖のためにも、神殿で光と知識を得ることができるよう望んでいらっしゃいます。家族の記録で直系の系図は一応出しておりますが、傍系の方はまだ出していませんので、この機会にもっと系図の探求をしなければと思っています。

この真実の教会に神殿があり、この道以外に救いに至る道はないことを証します。(よしざわ・としろう、みどり福岡ステーキ福岡ワード出身、1995年5月任命)

*



①川村 明, 栄子
②1996年6月
③東京東S／長生W



①中村雅延, 妙子
②1996年5月
③札幌西S／苫小牧B

ブックセンターから

新刊のご案内

以下のインスティテュート生徒用資料が新版末日聖典に準拠して改訂されました。



●『旧約聖書(創世記-サムエル記下)』
(32489 300) ¥1,500



●『旧約聖書(列王紀上-マラキ書)』
(32498 300) ¥1,500

価格改訂のお知らせ

◎『宣教師ガイドパッケージ』のセット販売と単品扱い

『宣教師ガイドパッケージ』は『宣教師ガイド』『宣教師のための福音学習プログラム』『宣教師ガイド用カセットテープ』の3点セットになっていますが、カセットテープを含め個々に購入できます。価格は以下のとおりです。

●『宣教師ガイドパッケージ』改訂版。3点セット
(31235 300) ¥1,200

- 『宣教師ガイド』改訂版。単品
(31236 300) ¥500
- 『宣教師のための福音学習プログラム』改訂版。単品
(31157 300) ¥200
- 『宣教師ガイド用カセットテープ』改訂版。単品
(52413 300) ¥500

◎初等協会テキストと視覚資料のセット販売(無料交付品)

従来、初等協会テキストと視覚資料は別々に販売されていましたが、今後はセットでの販売となり、価格が下記のように改訂されます(管理者の署名があれば、無料で入手できます。)

- 『初等協会1「わたしは神の子」』
(34969 300) テキスト+視覚資料
¥500 → ¥1,000
 - 『初等協会2「正義を選ぶA」』
(34484 300) テキスト+視覚資料
¥500 → ¥1,000
 - 『初等協会4「モルモン書」』
(34594 300) テキスト+視覚資料
¥500 → ¥1,000
- なお視覚資料については、従来どおり単品販売もいたします(視覚資料のみ各¥500)。

初等協会の視覚資料の活用

- 『CTRコースB視覚資料』
(86214 300)在庫商品のみ特價 ¥200
- この視覚資料は現在絶版となっていますので、在庫商品のみ販売となります。60点に及ぶ写真や絵、6枚の切り抜き絵は、初等協会のレッスンのみならず、家庭の夕べのレッスンなどでも幅広く活用できます。ご利用ください。

7月に召された専任宣教師

第202期生 11人



前列左から1-6, 後列左から7-11

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 山崎陽子	岡山S/岡山W	福岡伝道部
2. 高橋知枝	東京北M/宇都宮D/古河B	札幌伝道部
3. 藤野幸子	福岡S/井尻W	東京南伝道部
4. 杉本直未	町田S/町田第一W	福岡伝道部
5. 篠原由子	札幌西S/函館W	福岡伝道部
6. 柏倉晶子	町田S/藤沢W	神戸伝道部
7. 兵頭さやか	岡山M/松山D/宇和島B	東京北伝道部
8. 前原美雪	岡山M/山口D/下関B	名古屋伝道部
9. 平野りな	東京西S/多摩W	札幌伝道部
10. 保阪須美子	東京西S/国立W	岡山伝道部
11. 平田昭博	福岡M/熊本D/長嶺B	札幌伝道部

S:ステーキ, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

役員の変動

1996年6月14日から1996年7月15日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動(敬称略)

- 札幌ステーキ稚内支部
新支部長:小林秀則
- 札幌西ステーキ手稲第一ワード
新監督:池端行夫
- 仙台伝道部青森地方部大館支部
新支部長:佐藤祐輝
- 東京北伝道部宇都宮地方部宇都宮支部
新支部長:石崎重吉
- 東京ステーキ所沢ワード
新監督:佐久間 実
- 名古屋伝道部石川地方部七尾支部
新支部長:内間安克(宣教師)
- 京都ステーキ西京極ワード
新監督:改崎哲郎
- 大阪東ステーキ高槻第一ワード
新監督:下川 要
- 岡山ステーキ津山支部
新支部長:服鳥道治
- 岡山ステーキ尾道支部
新支部長:住吉 薫
- 福岡伝道部熊本地方部大牟田支部
新支部長:新名敏宏
- 沖縄那覇ステーキ嘉手納支部
新支部長:崎原永遠
- 沖縄那覇ステーキ普天間ワード
新監督:安里吉隆
- 沖縄那覇ステーキ宮古支部
新支部長:榎戸将一

皆さんの原稿を 募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所, 電話番号), 教会での責任(役職名), 所属ユニット名を記入し, 写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただきます。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第, 編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕, 伝道部名, 召された月を明記)

◎あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

海外に召された 日本人宣教師



横山 ともこ
カリフォルニア・
サンバーナーディーノ伝道部
1996年8月,
仙台S/上杉W

おわびと訂正

1996年7月号(大会特集号)27ページの下記の箇所は誤りでした。おわびして訂正いたします。

「同じくドイツでロシア大使を務めていたレオ・トルストイ伯爵」→「レオ・トルストイ伯爵」